

再刊
日本立志編

名修身規範
河岸貫一著述

三



日本立志編卷三目次

勤勉ノ部

入高遠ノ志アリト雖氏勤勉スルニ非ズンバ事業

成就ス可カラサルヲ叙ス二丁

第一 粟田左大臣謹恪ヲ以テ嘉尚セラレシ事 三丁

第二 馬場信房松本桂林ヲ疎ミシ事 三丁

第三 稲葉一輶文雅ヲ以テ害ヲ免カレシ事 五丁

第四 佐野了伯平語ヲ演セタル事 六丁

第五 林羅山除日ヲ以テ講ヲ起セシ事 八丁

第六 山崎嘉右衛門五樂ヲ語リシ事 九丁

第七 伊藤仁齋赤貧ニシテ苦學セシ事 十三丁

第八 三宅重固獄ニ在テ書ヲ著セシ事 十四丁

大隈信常氏寄贈

明治三十八年九月廿二日



第九 貝原篤信老テ猶ホ怠ラサリシ事 十五丁

第十 原尚菴學ヲ嗜ム事 十七丁

第十一 澤維顯遊戲ヲ好マサリシ事 十八丁

第十二 井上嘉膳戸ヲ閉ヂテ書ヲ讀ミシ事 二十丁

第十三 伊藤莊治古語ヲ壁ニ貼シテ自ラ警シノ事 二十丁

事 二十丁

第十四 加々美光章線香ヲ焼テ書ヲ讀ミシ事 二十二丁

第十五 神屋彌左衛門文武ニ兼通セシ事 二十三丁

第十六 中西維寧恒ニ寢ニ就クヲ無カリシ事 二十五丁

第十七 蘆野孝七郎幽囚セラレテ書ヲ著ハセシ事 二十七丁

二十七丁

第十八 石多什厝子一冊ヲ厠中ノ壁ニ糊塗セシ事

第十九 莊田靜志ヲ立テ忠誠ヲ以テ白ラ勗メシ事 二十九丁

二十九丁

第二十 細井德民篤志力學ニ由テ德望ヲ得タル事 三十丁

三十丁

第二十一 並川彌左衛門論語ヲ讀ムヲ聞キシ事 三十三丁

第二十二 應舉心ヲ專ラニシテ繪事ニ刻苦セシ事 三十四丁

第二十三 森祖仙三年山ニ在テ其技ヲ切磋セシ事 三十六丁

第二十四 熊代彦之進虎園ノ前ニ在テ虎ヲ畫キシ事 三十六丁

三十六丁

第二十五 池無名發憤苦勵セシ事 三十八丁

第二十六 皆川淇園讀書ニ謹勉セシ事 三十九丁

第廿七 頼子成勉強刻苦シテ其志ヲ達セシ事 四十二

第廿八 古川某地理ヲ究メンガ爲メニ海内ヲ歴遊

セシ事 四十六

第廿九 森宇左衛門書ヲ手寫シ數十篋ニ至リシ事

四十八

第三十 觀世次郎太夫僧父ヲ師トセシ事 四十九

第卅一 寶生彌五郎指テ咋ムテ假面ニ血ヌリシ事

五十

第卅二 山田琳卿學業ヲ勤メ實踐ニ厚カリシ事 五十二

日本立志編卷三

千河岸 貫一 撰述

勤勉ノ部

人高遠ノ志アリト雖_レ。勤勉スルニ非ズンバ。事業ヲ成就ス可カラサルヲ叙ス。

人恆ネニ儉素ヲ尚トビ。其志ヲ高遠ニシ。敢テ奢侈ノ風ニ敗セズ。小成ニ安ンズルノ俗ニ泥マズト雖_レ。遊惰ニシテ其志ス所ノ事業ニ刻苦セズンバ。種ヲ良田ニ播シテ。而シテ耨ラサルニ同ジ。何ヲ以テ其事業ヲ成就スルヲ得ンヤ。且夫人心ハ。逢フ所ノ境ニ隨テ移動シ易ク。時ハ少ラクモ止ラス。一日一夜二十四時アリト雖_レ。現在ノ時ハ僅カニ

一秋時ノミ。前ナル者ハ既ニ去テ復タ還ラズ。後チナル者ハ未タ來ラザレバ。預メ之カ措置ヲ爲シ難シ。人生三萬六千ノ光陰。此現在ノ一秋時ヲ多ク積累セシモノニ外ナラス。然ルニ其腦裡ニ於テ。一タビ某事ヲ爲シ。某業ヲ成サントスルノ志ヲ興スアリトモ。或時ハ存在シ。或時ハ亡滅シ。有ルカ如ク無キカ如クナランニハ。決シテ其事業ヲ成就スベカラザルナリ。故ニ一タビ志ヲ立テ。某々ノ事業ヲ果タシ遂ゲント思惟セル。一秋時間ノ思想ヲ永ク保續シ。以テ身ヲ終フルニ至ルキハ。所謂精神到處金石皆透ル。何事カ成ラザランヤ。然ルニ其初志ヲ保持シ。以テ久キニ及ブニ就テハ。種々ノ障礙ヲ來タシ。其志ヲ遮斷セラル。無キ能ハズ。其之ヲ遮斷セラル。ニ際シ。百折撓マス。千挫モ屈

ヒズ。銳進シテ止マリル所ノ勤勉力アルニ非ズンバ。決シテ其初志ヲ遂クルノ目ニ達フ可カラザルナリ。彼松柏ノ鬱蒼トシテ天ニ參ハルヲ視ヨ。幾多ノ風雨霜雪ヲ經テ。其色ヲ改メズ。其年ヲ經ルノ最モ久シキハ。天下ノ良材トナル。人有用ノオト呼ビ。有爲ノ士ト稱セラル。モ亦然リ。若シ其勤勉スルヲ僅カニ數月。若クハ期年ニシテ。人材トラントスルハ。猶ホ獨活ノ老犬ナルガ如キ者ノミ。亦何ソ齒ヲニ措クニ足ランヤ。然レバ則チ洋ノ東西ニ論無ク。時ノ古今ヲ問ハズ。人生事業ノ成否ハ。勤勉ノ多寡如何ニ由レリ。然ルニ世人或ハ先賢古哲ヲ視。動モスレバ天資英敏ニシテ勉強ヲ待タズト爲ス。是賢哲ガ尋常ニ百倍スルノ力ヲ用キタル苦辛ヲシテ。水泡ニ歸セシムル者ト謂フベシ。

常人ハ勉強ニ間斷アリ。工夫ニ罅漏アリ。唯賢哲ハ間斷ナ
ク罅漏ナク。精純不息ナルガ故ニ。能ク常人ノ到ル能ハガ
ルノ地ニ達セルノミ。周文ノ疊々。孔子ノ敏求。周公ノ且ヲ
待ツノ類。聖人ト雖氏ミテ然ラザルハ無シ。朱子云。堯。誓。于
衆。舜。取。諸。人。豈。是。信。步。行。將。去。某。嘗。看。朋。友。好。論。聖。賢。等。級。看
求。却。不。消。如。此。說。如。千。里。馬。也。須。使。四。脚。行。駕。駟。也。是。使。四。脚
行。不。成。說。千。里。馬。都。不。用。動。脚。便。到。千。里。只。是。他。行。較。快。耳。ト。
此。說。真。然。リ。然。ル。ニ。佚。ヲ。好。ミ。勞。ヲ。厭。フ。ハ。人。ノ。常。情。ナ。ル
ヲ。以。テ。數。其。志。ヲ。激。勵。ス。ル。ニ。非。レ。バ。怠。惰。ニ。流。レ。易。シ。左。ニ
列。記。ス。ル。所。ノ。如。キ。ハ。則。チ。古。來。有。名。ノ。學。士。等。ガ。勤。勉。倦。マ
サ。リ。シ。事。蹟。ニ。シ。テ。後。進。ノ。士。ガ。其。心。志。ヲ。激。勵。シ。之。ヲ。シ。テ
間。斷。無。ク。罅。漏。ナ。カ。ラ。シ。ム。ル。ノ。鞭。策。タ。ル。ベ。キ。モ。ノ。ナ。ラ。ン

ト云爾。

第一 栗田左大臣謹恪ヲ以テ嘉尚セラレシ事

藤原在衡朝臣ハ。中納言山蔭ノ孫ナリ。伯父有賴養テ嗣ト
爲ス。延喜十二年文章生ト爲ル。安和中累進シテ從一位右
大臣ニ至リ。尋テ左大臣ニ轉ズ。其職ニ在ル。未ダ嘗テ朝參
ヲ廢セズ。一日風雨暴烈ナリ。衆相謂テ曰ク。勤恪在衡公ノ
如キモ。亦朝參ニ艱ムト。言未ダ畢ラズ。簾笠者至ルアリ。之
ヲ視レバ。則チ公ナリ。時人數稱ス。公豫テ帝ノ讀ム所ノ書
ヲ知リ。朝ヲ入ル毎ニ。車中必ズ其書ヲ載セ。顧問スル所
レハ。則チ應對明悉ナリ。是ヲ以テ才學ノ人ニ過グル無シ
ト雖。比。深ク嘉尚セラル。其薨ズルニ及ビ。從一位ヲ贈リ。栗
田ノ左大臣ト稱ス。

櫻所子曰ク、凡ソ士朝ニ在ルト野ニ在ルトニ論無ク、各自ノ勤ニ服シテ怠ラサルヲ以テ、修身ノ第一義トス。假令テ學ノ人ニ過グルアリト雖、苟モ其職務ニ怠ラバ、瑕疵トシテ指斥セラル、チ免ガレズ、宜ナル哉、公ガ才學人ニ過グルナシト雖、其謹勉ノ人ニ過グルヲ以テ、深ク嘉尚セラレシ、今世才ヲ負ビ氣ヲ持シテ、各自ノ勤メニ服スルヲ厭フ者、假令才氣人ニ過グルアリト雖、遂ニ世ノ輕淺スル所トナフン。

第二 馬場信房松本桂林ヲ疎ミシ事

松本桂林ハ、書ヲ讀ミ、善ク和漢ノ事蹟ヲ知ルヲ以テ、或時馬場美濃守信房、諸葛孔明ノ人トナリヲ問フ、桂林即チ説テ曰ク、孔明、躬カラ耕シ、劉備其材能アルヲ聞テ、ニタビ

草廬ヲ顧ミシニ及ビ、終ニ三分割據ノ策ヲ畫セリ云々ト、信房以為ク、桂林ハ學者ナリト、時ニ真田ノ家士、甘利同心須原宗左衛門ノ來リ訪フニ會ス、信房之ニ接スル頗ル鄭重ナリ、其歸リシ後、桂林恠ムテ謂テ曰ク、彼ノ輩ハ他士卒ノ微俸ヲ享ルモノナリ、何ゾ其接遇ノ太ダ鄭重ナルヤト、信房此ヲ聞テ以為ク、我ハ劉備ガ材能アル、農夫ヲモ、三タビ駕ヲ枉ゲテ聘セシト聞ケバ、人ノ材能ハ尊貴ナル者ナリ、彼甘利須原ニ士ノ如キハ、智畧アリ、勇武ノ名譽高キ者ナルヲ以テ、其材能ヲ敬シテ、慇懃ニ接待セリ、然ルニ桂林ハ自カヲ劉備孔明風雲際會ノ事ヲ説キツ、翻テ我ヲ尤ムルハ言行相撞着スルニ非ズヤ、然レバ則チ書ヲ讀ム丁チ解セサルモ、其事實ニ体達スル者ヲコソ、真ノ學者

ト謂フベキナリト。

櫻所子曰ク、世ノ講學ヲ事トスル輩、徒ニ文字章句ノ末ヲ攻メ、或ハ博洽記誦ヲ貪ボリ、嘖々トシテ議論ヲ逞フスルモ、曾テ心上ニ向テ、前賢古哲ノ言行如何ト推究セサル者、溜々トシテ皆是ナリ。口ニ修身ヲ説キ、經濟ヲ談ジ、權利トイヒ自由トイフモ、心ニハ志操無ク、檢束無キ、何ゾ抗顏シテ學士論者ト稱スルヲ得ンヤ。雨森芳洲謂ヘルコアリ曰ク、諸レハ、戲場ニ觀ル、且ツ孝婦タリ、且ツ義夫タリ、觀者ヲシテ心ニ感ジ、淚ヲ揮ハシメサルハナシ。稱讚已マス、戲終レバ、則チ舊ニ仍テ庸夫俗子ナルノミ、書ヲ講スル我輩ノ如キモ、皆一優人ノミト。善哉言ヤ。余ノ所謂學者ハ、則チ梨園弟子ノ忠臣節婦ヲ扮スルト一般ニシテ、彌見ノ假聲ヲ

爲シ、蘆騷ノ假面ヲ冒フテ、人ヲ嚇セントスル者、多カラストセズ。美濃守、爲メニ殊マレザル者ハ、蓋シ鮮ナシ。學ニ志ス者、意ヲ躬行心得ニ注カズンバアル可ラス。

第三 稻葉一徹文雅ヲ以テ害ヲ免カレシ事

稻葉伊豫守通朝後チ髮ヲ削テ一徹ト稱ス。齋藤龍興ニ仕フ。龍興暗弱ニシテ暴政多シ。將士多ク心ヲ織田氏ニ歸ス。通朝驟諫ムレ氏改メズ。通朝其與モニ爲スアルニ足ラサルヲ知り、終ニ去テ織田氏ニ屬ス。而シテ信長意未タ釋然タル能ハズ。乃チ茗讌ヲ設ケ、之ヲ茶室ニ延キ、竊カニ其臣三人ヲシテ、伴接ニ托シ以テ之ヲ圖ラシム。一徹從容トシテ茶室ニ入り、壁間挂ル所ノ詩ヲ朗吟シテ曰ク、雲橫秦嶺、家安在。雪擁藍關、馬不前ト。三人就テ其義ヲ問フ。一徹曰ク、

是ハ唐ノ韓愈ガ潮州ニ謫セラルハ時作イル詩ナリ云マ
ト其事實ヲ分解スル甚ダ詳カナリ信長壁ヲ隔テ、傾聽
シ、忽然トシテ走リ出デ、一徹ニ謂テ曰ク我レ初メ卿ヲ以
テ一武勇男子ト謂ヘルナリ今乃チ其文學アル此ノ如ク
ナルヲ知ル猜疑ノ心頓ニ消ス何ゾ殘害スルニ忍ビンヤ
ト乃チ告グルニ密謀ヲ以テス三人ニ命ジ各ヒ首ヲ懷ヨ
リ出サシメテ之ヲ示ス一徹頓首シテ謝シ袖裏亦刀ヲ出
シ笑テ三人ニ謂テ曰ク今日ノ事僕モ亦我心無キニ非ズ
ト信長嗟賞之ニ久シ
櫻所予曰ク危哉一徹若シ不學無術ニシテ文字ヲ解セズ
古人ノ詩ヲ演說スル能ハズンバ焉ンゾ刀俎魚肉ノ間ニ
在テ能ク從容トシテ以テ萬死ニ一生ヲ得ルアランヤ

夫レ人ハ其心ヲ娛マシムルヲ無キ能ハズ詩歌書画ヲ學
ブカ如キハ心ヲ娛マシムルノ資料ニシテ但輕重本末ヲ
失ハザレバ其益多シ況ヤ學術德行ノ身ヲ立テ家ヲ興ス
ベキ者ニ於テヤ

第四 佐野了伯平語ヲ演セシメタル事

佐野了伯ハ佐野ノ城主佐野宗綱ノ弟ナリ髮ヲ削テ天德
寺ノ主ト為ル天正十三年宗綱没シテ嗣無シ了伯佐竹義
宣ノ族ヲ以テ嗣ト爲サント欲ス其老大貫某竹澤某等肯
ンセス北條氏政ノ弟氏忠ヲ迎ヘ立テ嗣ト爲ス了伯怒
リ去テ京師ニ如キ黒谷ニ隱ル其驍名風トニ著ルヲ以
テ豐臣秀吉公北條氏ヲ征スルニ及ビ了伯ヲ召シテ卿導
ト爲ス佐野氏ノ舊臣ヲ招降ス時ニ氏忠小田原ニ在リ留

守ノ將士皆了伯ニ應ズ、獨リ大貫氏從ハズ、乃チ攻メテ之ヲ殺ス、秀吉了伯ヲ以テ佐野ノ城主ト爲ス、了伯之ヲ辭シ、富田左近將監次子、政綱ヲ以テ宗綱ノ後チト爲サンヲ請フ、之ヲ許ス、了伯入トナリ、智辯ニシテ義ヲ重ンズ、嘗テ琵琶法師ヲ招キ、平語ヲ演セシム、曰ク、我が爲メニ悲愴ノ曲ヲ奏セヨト、對テ曰ク、諸乃チ佐々木高綱宇治川ノ曲ヲ奏ス、了伯愴然トシテ涕下ル、奏シ闕テ又一曲ヲ請フ、耶須宗ニ語テ曰ク、前日ノ平語汝チニ於テ如何咸ナ對テ曰ク、絶ダ歎ナリ、獨リ座ムニ曲皆勇氣奮發、人ノ胸懷ヲ快フス、而シテ君獨リ之ヲ悲ムハ何ゾヤト、了伯歎ジテ曰ク、吾今ニシテ後チ汝ガ輩皆頼ムニ足ラザルヲ知ルナリ、夫レ高綱

騎ル所ノ馬ハ源右府之ヲ其親弟ト其寵臣トニ予ヘズシテ、獨リ之ヲ高綱ニ賜フ、高綱右府ニ矢テ曰ク、臣竊ニ先ダツテ宇治川ヲ騎渡セズンバ、復タ生還セズト、宗高ハ如キモ亦然リ、源判官熊貔ハ士固ヨリ乏シカラザルナリ、而シテ宗高衆ニ技カレ、獨騎海中ニ向フ、兩軍皆戰ヒヲ息メテ觀ル、是時ニ當リ、若シ射テ中タラズンバ、宗高必ス屠腹シテ死セン、二子ハ先ヅ死ヲ胸中ニ決ス、是ヲ以テ其情ヲ察ス、我レ安ゾ之ガ爲メニ悲マサルヲ得ンヤ、我戰ヒ臨ム常ニ二子ハ心ヲ以テ心ト爲ス、故ニ其曲ヲ聽テ其感ニ堪ヘザルナリ、汝等ガ勇ハ唯血氣ニ任カス、其實ニ出ルニ非ス、事ニ臨ンデ豈ニ恃ムニ足ランヤト、

櫻所子曰ク、志士ハ溝壑ニ在ルヲ忘レズ、勇士ハ其元ヲ喪

フヲ忘レズ。故ニ古代戰陣ニ於ケル事ヲ聞ク、亦悲愴ノ感
情ヲ喚起スルヲ致ス所以ナリ。所謂活眼ヲ以テ活書ヲ讀
ム者、了伯ノ平語ヲ聽クガ如キヲ謂フナル可シ。思フニ古
來英雄豪傑ノ士、及び一技一藝ニ名アル者ハ、其志恆ニ存
シテ、精神ヲ盡ニ止メサル無シ。視ヨ郭泰ハ材ヲ求ムルノ
心在リ。故ニ茅容カ雨ヲ避ルヲ見テ、其異常ノ器能アルヲ
知ル。越前少將勇武ヲ以テ天下絶倫ト稱セフレントスル
ノ志恆ニ存ス。故ニ舞妓ノ曲ヲ奏スルヲ觀ルモ、亦涕泣ス。
顏回ハ孝養ヲ思フ。故ニ飴ヲ見テ老ヲ養フベキ者トシ。盜
跖ハ翻テ之ヲ戸樞ニ塗ルノ具ト爲スガ如シ。然レバ則チ
了伯カ平語ヲ聽クハ、移シテ以テ史ヲ讀ミ書ヲ解スルノ
法ト爲ス可キ、ミナラズ、學藝技術ニ志ス者ハ、渾テ其精

神ヲ匿ニ其學習スル所ニ存スレバ、趣フ所ノ境、渾テ其志
氣ヲ激勵シ、誘テ以テ妙境ニ趣向セシムルノ具タラサル
無キヲ知ルニ足ラン。夫レ此ノ如クナラバ、天地萬物、耳目
ニ觸ル、所ノ者、悉ク是我藥籠中ノ物タリ。若シ之ニ反シ
テ、酒色若クハ玩好ノ爲ニ、其志恆ネニ存スルヲ無クンバ、
口ニ中外古今ノ事蹟ヲ談ジ、心ニ和漢歐米ノ賢哲ノ嘉言
善行ヲ誦ムズルモ、諸ニ所謂隣家ノ財産ヲ算フルカ如ク、
亦何ノ益カアラシヤ。知ルベシ人ノ勇怯巧拙アリ、智愚賢
不肖アル所以ノ者、至竟勤勉ニシテ、恆ニ其志ヲ精神ニ存
セサル無キト、怠惰ニシテ時トシテハ、其志ヲ遺失スルヲ
アルトニ由ル察セサル可ケンヤ。

林信勝、羅山ト號ス。徳川氏創業ノ時ニ際シ、大ニ任用セラレ、儀則律令ヲ創定シ、幕府須ユル所ノ文書、其手ヲ經サル者ナシ。初メ家康公ノ召ニ應ジ、四世ニ歷仕シ、即位改元、行幸入朝ノ禮、及ビ宗廟社稷祭祀ノ典、外國ノ事、與カリ議セサルナシトイフ。其博洽ナル。天下ノ書ニ於テ讀マサルナク、著スル所凡ソ百有餘部アリ。中ニ於テ水集百五十卷、詞エナラザルモ、其言微スルニ足ル者多シ。其暮年ニ及ンテ、視聽衰ヘズ、寸陰ヲ惜ニデ、勤勉スルヲ猶ホ必年ノ時ニ減ゼズ、少キヨリ二十一史ヲ讀ム數過ニシテ、晉書以下未タ句セズ。年七十四ニ及テ、遍ネク之ヲ句セント欲シ。晉書宋書、南齊書業ヲ畢リ、其翌年ニシテ沒セリ。羅山嘗テ人ニ邀ヘラレテ祇園會ヲ觀ル。適一諸生棠陰比事ヲ袖ニシ來テ

問フ。羅山答ク之ヲ詔ハ、晷既ニ移リ、遂ニ會ヲ觀ズ。又羅山カ同門ノ人皆得菴歲暮、羅山ニ謂テ曰ク、余未タ通鑑綱目ヲ讀マズ。先生明春ヲ以テ余ガ爲メニ之ヲ講セヨト。羅山曰ク、子ガ心誠ニ之ヲ求メバ、何ゾ來年ヲ待タント。即チ除日ヲ以テ講ヲ起ス。櫻所子曰ク、慶元ノ時代、三尺ノ劍ヲ以テ身ヲ立テ家ヲ興ス者、數フルニ勝ユベカラズ。而シテ羅山道春、獨リ孔孟ノ道ヲ唱ヒ、遂ニ民部卿法印ト爲リ、東興城ニ入ルヲ聽ス。人特旨ヲ羨クルニ至ル。之ヲ我邦ノ叔孫通ト謂フモ可ナリ。其老ニ至テモ、勤勉儘ムヲ知ラズ。除日ヲ以テ講ヲ開キシガゴトキ、後進ノ士ガ懶惰ヲ證スルノ藥石ト爲スベキナリ。

第六 山崎嘉右衛門三樂ヲ語リシ事

山崎嘉右衛門、闇齋ハ其號ナリ。京都ノ人、木下侯ニ仕テ、闇齋始メ江戸ニ到ル。寒、寒ニシテ、儻石無シ。故テ、書商ニ鄰、以テ、賃居シ。以テ、其書ヲ借閱ス。是時ニ當リ、井上侯學ヲ好ミ、士ニ下レ。書商モ亦數謁見ス。一日、侯商ニ謂テ曰ク、寡人マサニ學ハントス。爾等ノ知ル所、人ノ師トス。爾等ニ足ル者アラバ、請フ爲メニ紹介セヨト。曰ク、近ニ中ニ儒生、山崎嘉右衛門トイフ者アリ。京師ヨリ來テ、小人ノ東家ニ住ス。其以テスル所ヲ視ルニ、尋常ニ度越ス。聞テ、其才ヲ歎ル。其ハ、其不虞ノ幸福ヲ得ルトナリ。豈ニ感奮シテ、賦詩ヲ爲ス。思ハサランヤト。侯大ニ喜ビ、乃チ延致セシメ、商、闇齋、關齋、告グ。闇齋毅然トシテ曰ク、侯道ヲ問ハントセバ、則チ先

ッ來リ見コト。商慨然トシテ以爲ク、措大時勢ニ通ゼス。若シ此ノゴトヤ人ヲ薦メバ、必ズ上ヲ凌ギ、汝ヲ無ミ。累自カラ及バン、薦メリルニハ若カズト。他日、侯復タ問テ曰ク、疇昔告グル所、山崎生ハ如何ント。商曰ク、小人情ルニ非ハナリ。前日既ニ命ヲ渠ニ傳フ。渠曰ク、侯先ヅ來テ余ヲ見コト。是頑愚ニ非レバ、即チ狂率名ヲ邀ムルナリ。請フ別ニ通儒ヲ選ベト。侯咨嗟良久フシテ曰ク、方今師儒ト稱スル者、多クハ道ヲ行フニ意口無シ、東奔西走、一售ニ易キヲ欲ス。而シテ、孤之ヲ聞ク、禮來學ヲ聞ク、其才ヲ聞ク。山崎生能ク之ヲ守ル。此レ乃チ真儒ナリト。侯大ニ喜ビ、命シテ、其居ヲ訪フ。其、猗猗擁貴ニ屈セザル。擬テ此類ナリ。闇齋ノ學、初メ專ラ濂洛ヲ祖トシ。晚ニ及テ、吉川惟足ニ從ヒ、神道

學ビ、遂ニ一家言ヲ立ツ、其學大ニ世ニ行ハレ、前後、執、者、六、十、餘、人、車、馬、門、ニ、滿、ッ。

會津侯嘗テ闇齋ニ問テ曰ク、先生樂ミアルカ。答ヘテ曰ク、臣ニ三樂アリ、凡ソ天地ノ間生アル者何ゾ限ラン。而シテ萬物ノ靈タルヲ得ル、一樂ナリ。天地ノ間一治一亂、守數無シ、而シテ右文ノ世ニ生レ、書ヲ讀ミ道ヲ學ビ、古ノ聖賢ト、臂ヨ一堂ノ上ニ把ルヲ得ル、一樂ナリ。是レ臣ガ樂ミトスル所ナリト。侯曰ク、二樂ハ既ニ之ヲ聞ク、丁ヲ得ク、請フ亦其一樂ヲ聞カシト。曰ク、此レ其最モ大ナル者ニシテ、言ヒ難キ所以ハ者ハ、君侯必ズ信ズ、以テ毀譽訛謗ト爲サント。侯曰ク、寡人不敏ナリト。雖モ先生ノ言ヲ奉ジ、我々トシテ諫メ求メ、忠言ヲ渴聞ス、何ゾ今ニ至テ教ヘテ終ハ

ラリルヲレシヤト。曰ク、君ノ言、此ニ及ハ、某假令、裁辱逢フレ、豈ニ言ヲ盡リ、シヤ。所謂某ガ樂ノ最モ大ナル者ハ、幸ニ卑賤ニ生レテ、侯家ニ生レサル是ナリト。侯曰ク、敢テ問フ、何ゾ曰ク、意フニ今ノ諸侯タルヤ。深宮ノ中ニ生レ、婦人ノ手ニ長ジ、不學無術、聲色ニ徇ガヒ、遊戲ニ耽ケリ、而シテ之ガ臣タル者ハ、主意ヲ迎合シ、其爲ス所ハ、因テ之ヲ稱譽シ、其爲サル所ハ、因テ之ヲ非毀シ、遂ニ本然ノ性ヲシテ、枯亡消滅ヒシム。其卑賤ノ幼ニシテ、辛苦ヲ嘗テ長ジテ、事務ニ習ヒ、師教ヘ友輔ケ、以テ其智慮ヲ益ス者、視ブレバ、何如ト爲スヤ。是レ某ガ卑賤ニ生レテ、侯家ニ生レサルヲ樂ミ、最モ大ナリトスル所以ナリト。是ニ於テ侯茫然トシテ、自失シ、嘆息シテ曰ク、誠ニ先生ノ言ハ如シ。

ト。

櫻所子曰ク。今ノ少年。動モスレバ輒チ曰フ。吾學ニ志スト。雖此學資無ク。大都ニ赴テ研精スルニ由無シト。或ハ曰フ。良師無キ。非スト。雖此書ヲ買フノ資無キチ奈何センヤ。ト。而シテ富貴榮達ヲ慕フ。飢渴ノ飲食ニ於ケルヨリモ甚シク。業未タ熟ヒス學未ダ成ラスシテ。早ク既ニ禄ヲ求メ。微官薄俸ニ安ニスル者多カラズトセズ。之ヲ樹木ヲ未ダ長ゼザルニ伐リ。菓實ヲ未ダ熟ヒザルニ摘ムルニ喩フ。豈惜シカラズヤ。視ヨ前哲先輩ノ寒暑ニ生長シテ。名ヲ成シ家ヲ興スモノ多ク。富貴ニシテ學識富贍ナル人少キヲ。聞齊ノ如キハ。其貧窶隣ヲ書肆ハ傍ニトシ。其書ヲ借覽スレト。屹然トシテ守ル所アリ。取テ權貴ノ人ニ屈セズ。卑賤

ニ生レノ富貴ニ生レザルヲ以テ。樂ミノ最モ大ナル者トスルガ如キ。其志操ノ堅忍不拔ナルヲ見ルニ足レリ。而シテ其天性峭嚴ニシテ。師弟ノ間儼トシテ君臣ノ如ク。教ヘテ受クル者。貴卿巨子ト雖此。之ヲ眼底ニ置カス。書ヲ講ベル音吐鐘ノ如ク。面容怒ルガ如ク。聽衆凜然トシテ敢テ仰テ見ズ。門生毎ニ竊カニ相告ゲテ曰ク。吾儕未タ抗儼ヲ得ズ。情欲ノ感時ニ動キ。自ラ制スル能ハス。則チ瞑目シテ先トテ一想スレバ。欲念頓ニ消シ。寒カラズシテ慄スト。以テ其素行ノ如何ヲ知ルニ足レリ。歐人ノ諺ニ曰ク。奴僕ノ目。英雄無シト。是英雄豪傑ト雖此。平素ノ行爲ニ於テハ。自カニ其短所ノ掩フ可カラザルアルヲ謂フナリ。然ルニ日ニ其講帷ニ侍スルノ門生ニシテ猶ホ此ノ如シ。翁ノ養フ

所知ルベキナリ。然レハ闇齋モ亦人ナリ。後進ノ君子之ヲ
勉メヨ。

伊藤仁齋赤貧ニシテ苦學セシ事

伊藤仁齋ハ京都ノ人家素ト賈ヲ業トス。仁齋幼キヨリ穎
異。提發群兒ニ異ナリ。其始メ句讀ヲ習フ時。意已ニ儒ヲ以
テ一世ニ焜耀セシト欲ス。稍長スルニ及ビ。堅苦自ラ勵ム
親戚以テ利ニ迂ナリト爲シ。皆ナ之ヲ沮ンテ曰ク。學問ハ
是レ彼邦ノ事ナリ。此邦ニ在テハ固ヨリ無用ニ屬ス。假令
之ヲ能クスルモ售レ易スカラズ。如カス醫術ヲ爲シ。以テ
生産ヲ致サシニハト。仁齋從ハズ。而シテ家日ニ哀劇ス。沮
ム者愈止マズ。而シテ其志確乎トシテ變セズ。其遂ニ赤貧
ニ至ルハ。歲暮糲糲ヲ買フ。能ハズ。亦曠然トシテ以テ意

トセズ。妻跪キ進ムデ曰ク。家道有鞠。妾未ダ嘗テ堪エズト
セズ。而シテ獨リ其忍フベカラザル者ハ孺子原藏未ダ貧
ノ何物タルヲ解セズ。人家資アルヲ羨ミ。連リニ求メテ已
マズ。妾口ヲ能ク之ヲ譙阿スト。雖氏腸爲メニ斷絶スト。言
託テ泣下ル。仁齋几ニ隱リ書ヲ閱ミシ。一言之ガ答ヲ爲サ
ズ。直チニ其著スル所ハ外套ヲ脱シ。以テ妻ニ授ク。或時左
右比屋カチ戮セテ義并ヲ濬フス。仁齋之ヲ聞キ出テ共
ニセシト欲ス。衆皆ナ曰ク。吾曹之ヲ成セバ足ル。何ゾ先生
ヲ役スルコトヲセント。仁齋曰ク。敢テ義ノ辱キヲ謝セザラ
ンヤ。然リト雖氏余此井ニ汲ム。既一衆ト異ナラズ。今豈ニ
獨リ與カラサルノ理アラハヤト。遂ニ縋ヲ執テ其勞ヲ分
ツ。其貧ニ居テ歲マズ。學識高フシテ人ニ驕ラザル。此ノ

如シ。肥後侯、祿千石ヲ以テ之ヲ招ク。辭スルニ、母老テ侍養
人無キヲ以テス。利祿ノ爲メニ其心ヲ動カサザル。亦此ノ
如シ。而シテ年六十二垂ントスルマデ。家猶ホ寒シ。其生徒
ヲ教授スルコト四十餘年。天下ノ學者四方ヨリ來テ之ニ
歸ス。國トシテ至ラザルナシ。唯飛騨佐渡、壹岐三州ノ人ノ
門ニ及バザルノミ。謂ヲ執ルノ士。千ヲ以テ數フ。實ニ一代
ノ儒宗ト稱スベシ。

櫻所子曰ク、仁齋ハ市井ノ間ニ生長シ。其幼齡句讀ヲ受ク
ルノ日。早く已ニ一代ノ儒宗タラントスルノ志ヲ抱キ。之
ヲ持スルノ堅確ナル。親戚之ヲ沮メトモ撓マズ。赤貧骨ニ
徹ス。レ氏戚マズ。千石ノ俸祿ヲ以テスルモ動カズ。春臺ノ
所謂仁齋ハ、豪傑ノ士ナリ。所謂文王ヲ待タズシテ作ルモ

ハナリトハ。溢言ニ非ルナリ。世或ハ其家政ニ過ナルト。花
街ヲ過テ花街ナルヲ覺ラザリシ事トヲ以テ。世事ニ達
セザルヲ嗤ル者アリト雖。是未タ大小輕重ヲ知ラザル
者ノ言ノミ。逐々トシテ日ニ錙銖ノ利ヲ爭ヒ。若クハ大都
花柳ノ地ヲ諳ンズルモ。身ヲ修メ家ヲ齊フルヲ知ラズ
ンバ。是其重且大ナル者ヲ棄テ。小且輕ナル者ヲ取ル者
ノミ。何況ヤ仁齋ノ如キ。學師傳一由ラズシテ。徳川氏以來
ノ儒學ノ嚆矢タリ。躬行恭謙ニシテ。立春ノ夕バ。必ず禮服
ヲ着ケテ炊豆ヲ撒ゼシガ如キ。其地ヲ過ギ其主ヲ禮セズ
シテ可ナランヤトテ。梵刹ヲ過ギ佛像ヲ見レバ。即チ拜セ
シガ如キ。細瑣ノ事ト雖。氏亦敢テ輕忽ニセズ。其篤實溫厚。
中江藤樹ヲ除クノ外。亦見ガル所ニシテ。學者修身ノ模範

トスヘキ碩儒ナルヲヤ。

第八 三宅重固獄ニ在テ書ヲ著セシ事

三宅重固ハ尚齋ト號ス。播磨ノ人ナリ。年十九ニシテ山崎闇齋ノ門ニ入り。專ラ儒學ヲ攻ム。後チ江戸ニ遊ビ辟ニ阿部侯ニ應ス。元禄中。將軍綱吉公。侯ノ邸ニ臨ス。重固ニ命ジテ論語ヲ講セシム。乃チ衣服ノ賜アリ。其官ニ在ル忠直務メテ其誠ヲ盡クス。居ル十一年。言行ハレサルヲ以テ疾ニ移シテ致仕ヲ乞フ。允サレズ。猶ホ數乞フテ止マズ。是ヲ以テ罪ヲ得。武藏國忍ニ幽囚セラレタリ。重固其囹圄ニ在ルヤ。危難窮迫ノ際。之ニ處テ裕如タリ。乃チ謂フ。古人刑セラレテ尚ホ能ク書ヲ著ハス。吾寧ゾ爲スト。無クシテ斃ルヲ待タシヤト。然レ氏筆墨得ヘカラス。因テ臂ヲ刺シテ狼

虎録三卷ヲ血書ス。侯人ヲシテ重固ヲ察ヒシム。重固即チ詩ヲ作テ之ニ示ス。其詩ニ曰ク。

富貴膏矢不ニ心。但向面前養誠心。四十餘年學何事。笑坐獄中鐵石心。

其氣象豪爽ナル此ノ如シ。獄ニ在ル丁三年。赦ニ會フテ放タル。是ニ於テ去テ京師ニ之キ。儒ヲ以テ業ト爲シ。培根達支ノ兩學舎ヲ勸解由坊ニ建テ、業ヲ講ス。搢紳公侯從游スル者甚ダ多カリシト云フ。

櫻所子曰ク。尚齋ノ獄ニ在ル。吾寧ゾ爲スト。無クシテ斃ルヲ待タンヤト。血ヲ刺シテ書ヲ著スルニ至リシモノ。以テ其平生ノ志氣如何ヲ視ルニ足レリ。愈愔安逸ヲ貪ルモハ。獨リ明時ノ廢物ノミナラズ。亦尚齋ノ罪人ナリ。

第九 貝原篤信老テ猶小怠ラザリシ事

貝原篤信益軒ト號ス。筑前ノ人。國主黑田侯ニ仕フ。寛永七年ヲ以テ福岡城中ノ官舎ニ生ル。篤信幼ヨリ警敏ニシテ殊實アリ。中年ニ及ビ。京師ニ入テ講學ス。都下ノ名彦胥ナ心ヲ傾ケテ之ニ下ダル。博學洽聞ヲ以テ。名海内ニ重シ。篤信好ムテ書ヲ著ス。而シテ世ヲ救フハ心實ニ苦コロニシテ。其著スル所。百有餘種。多ク書スルニ國字ヲ以テシ。語極メテ懇切ナリ。田畠紅女童兒隸卒皆ナ之ヲ使トス。又攝生ニ善シ。老ニ至テ猶小嬰孺トシテ衰ヘズ。其屬綴スル所。モノ少ナカラズ。六十二シテ和漢名數増補ヲ作り。六十七ニシテ大和廻リヲ作り。七十四ニシテ筑前續風土記。及ビ點例ヲ作り。七十五ニシテ諸菜譜ヲ作り。七十九ニシテ大

和本州ヲ作ク。ハ一ニシテ樂訓ヲ作リ。八十四ニシテ養生訓ヲ作クル。其著スルトコ。明徳錄ニ謂ハル。トアリ。曰ク。魏志ニ曰ク。胡昭怡々トシテ歟セサル無シ。僕隸ト雖ドモ必ズ禮ヲ加フ。年八十ニシテ書讀ニ倦マサル者。胡徵君ニ於テ之ヲ見ルト。篤信謂ラク。胡昭愛敬ノ德量及ブ可カラズ。以テ法ト爲ス可シ。八十書ヲ讀ムデ倦マサルガ如キハ。吾輩輩ナリト雖ドモ。亦夕月夕侍卷ヲ讀ム力ズ。是レ企及ス可シト爲スト。此レ篤信自ラ集實ニ紀スルナリ。篤信ノ人タル謙恭純篤ナリ。其言ニ曰ク。吾輩ニ朱子ノ後生トシテ。其書ヲ窺フハ。トハ得無窮ノ事。又閑寂ノ思ト謂フ可キナリ。故ニ吾其之ヲ敬スル神明ノ如ク之ヲ信スル。蒼龜ノ如シト慕シ其學。初メ陸象山王陽明ノ說ニ取リ。

後、朱熹ノ學ニ歸依セシヲ以テナリ。篤信年八十五ニシテ没ス。

櫻所子曰ク、近世ノ人、四十五十二至レバ、輒チ自ラ老ヲ稱シテ百事爲ス能ハザルモノ、如クシ、勉強耐忍ノ氣象無ク徒ニ給養ヲ兒孫ニ託シ、安逸以テ死ヲ待ツノミ。夫レ人生ハ僅カニ三萬六千日、而シテ年七十二至ルヲ得ル者、古來稀ナリトセバ、年弱冠ヲ過ギ、ザル際ハ幼少ナリトシ、四十ヲ踰ユレハ老衰ナリトシ、其事業ヲ成就スルノ日月、數千日ニ止マル者トスルカ、何ゾ自ラ任ズルノ志ニ乏シキヤ、不幸ニシテ疾病事故アルニ際セバ、一事一業ヲ成サズシテ、岫木ト共ニ枯朽センノミ。聞ク歐洲ノ人、年六七十ナル者、數人相會スルアリ。語次一モ身體衰弱ノ事ニ反

フ無シト。我邦人ノ老者相逢フテ、晤語スレバ、必ズ死ヲ待ツノ用意ヲ説クト、全ク反對セリ。是素ヨリ平素備生ニ意ヲ注ガザルヨリ、眼昏ク齒落ク、身曲カリ脚重キニ至リ易ク、矍鑠タル者少キニ由ルノル可シト雖、抑モ亦其習俗ノ然ラシムル所。老テ猶ホ勉ム可キ者ト爲リ、ムルニ由レリ。篤信其人ノ如キ、博學洽聞、海内無比ト稱セラハ、モ、自ラ足レリトセズ、年八十二至テ、手恆ニ卷ヲ釋カザリシハ、歐洲ノ博士學匠ニモ羞ダザル可シ。且ツ其朱子ニ於テ、無窮ノ幸罔極ノ恩アリトシ、之ヲ敬スル神明ノ如シト云フ者、今ノ書生ノ其學未ダ熟セズシテ、輒ク人ノ短ヲ拾ヒ、以テ口實ト爲シ、先覺者ヲ是非シテ、嘖々スル者ニ比スレバ、月鼈膏壤、ナラザルナリ。

第十 原尚菴學ヲ嗜ム事

原尚菴ハ京都ノ人ナリ。享保三年ニ生マレ、年五十二シテ没ス。儒ニシテ醫ヲ兼イ。清國ノ語ニ通ズ。以テ七井侯ニ仕フ。尚菴幼ニシテ雋異。十歳ニシテ章句ヲ伊藤東涯ニ受ク。漸長ジテ、學ヲ嗜ム。飢渴ノ如シ。口誦中、晝夜廢セ。父母内チ之ヲ奇トシテ、其或ハ疾ヲ得ルヲ過慮ス。謂テ曰ク、帷ヲ下シ、憤リヲ發スルハ、成人ノ事ナリ。兒今童年、惟學間、斷無クシテ、可ナリト。尚菴曰ク、發起シテ文字ヲ尋思ス。レバ、心下驟爽ナルヲ覺フ。猶疑レバ、則チ頭岑々トシテ、心裏甚ダ安カラズト。其長スルニ及ビ、博學能文、家資亦頗ル富ムニ至レリト云。

櫻所子曰ク、世ノ學業ニ刻苦スル者、間之カ爲ノニ疾ヲ獲

シ。遂ニ投棄ス可カラザルニ至ル者アリ。是其軀幹ノ柔弱ニ由ルモ、ノナルベシト雖、抑モ亦多學ニ苦ムデ、未ダ學ヲ嗜ムニアラザルヲ以テナリ。尚菴ノ如キハ、學ヲ嗜ムノ深キ者ト謂フ可シ。諺ニ言フ、之ヲ嗜ム者ハ之ヲ爲スノ巧妙ナル者ナリト。尚菴ニ於テ我モ亦言フ。

第十一 澤維顯遊戲ヲ好マサリシ事

澤維顯、澤所ト號ス。近江ノ人ナリ。井伊侯ノ世臣タルヲ以テ、琴所亦歳十四ニシテ、祿三百石ヲ襲テ、直侍ト爲ル。侯ニ從テ江戸ニ在ル三年。元禄中、疾ニ由テ致仕シ。京都ニ遊學シ。門チ杜テ、客ヲ謝シ、書ヲ讀ミ、カ學スル。ト七八年、中年ニ及ビ、松雨亭ヲ彦根城ノ南、松寺村ニト築シ。徒ヲ聚メ、書ヲ講ス。門ニ棲遲スト、雖、氏從遊ハ盛ナル、未ダ曾テアラザ

ハ所ナリ。農夫奴婢ニ至ルマデ皆琴所アルヲ知ラザル者
無カリ。シト云フ。初メ琴所ノ江戸邸ニ在ルヤ。衆ニ異ナル
所アリ。凡ソ藩國ノ士大夫江戸ニ祿役シ。邸ニ寓スル者大
抵周歲ニシテ交代ス。其未ダ代期ヲ得ザレバ。公署ニ朝夕
シ。職掌ニ從事ス。出入限リアリ。勞ヲ極メカヲ窮メ。以テ一
日ヲ過グ土ヲ懷フノ情。親ヲ思フノ心。念マ已マズ。以テ代
期ヲ俟ツ。故ニ其公ヨリ退テ舍ニ在ルヤ。或ハ茶ヲ品シ味
ヲ愛シ。或ハ局ヲ引テ勝ヲ争ヒ。或ハ器ヲ玩ビ物ヲ弄シ。百
ノ遊戲未ダ以テ日ヲ消シ悶ヲ遣ルニ足ラズ乃チ朋類ヲ
延キ。醉飽歌呼シ。謔浪笑敖シ。放歌起舞シ。宜奴紛擾シ。四隣
ヲ駭驚ス。往々是ニ由テ譴責ヲ蒙リ罪ヲ受ル者アリ。蓋シ
百餘一轍。他事アルヲ無シ。琴所墜力ニ罪冠ニシテ。既ニ此

ニ見ルアリ。公退ノ後。ハ讀書是レ勉ム。講習ノ間。朋類來
テ勸ハルニ。遊戲ヲ以テスレバ。辭スルニ。睡ヲ好ムヲ以テ
ス。白晝ト雖。枕ヲ高フシテ寢ニ就ク。其志ヲ學業ニ專ラ
ニセシ。此ノ如クナリシト云フ。

櫻所子曰ク。琴所ガ睡ヲ好ムヲ以テ朋類ヲ謝絶セシト。井
上蘭臺ガ不在ヲ以テ客ヲ謝ストハ。昔時學者ノ分陰ヲ惜
テ。日夜孜々トシテ學習セシヲ見ルニ足レリ。夫レ人公ニ
奉スルト私ヲ營ムトニ論無ク。皆各自ノ職務アリ。本務ノ
餘暇ヲ以テ。書ヲ讀ミ。學ヲ究メントスレバ。人ト談笑。飲
酒博局ヲ事トスルヲ得ズ。今ヤ公ニ私ニ各自ノ職務ニ從
事シ。各自ノ營業ニ朝夕シ。出入限リアリ。勞ヲ極メヌヲ窮
ムル者。太ダ多シ。而シテ其家ニ歸ルヤ。乃チ朋類ヲ延キ。醉

飽歌呼レ、誰浪笑敷スルノミナラズ袂ヲ連ネテ花街ニ散
坂シ車ヲ列ネテ柳巷ニ逍遙シ、殆ンド虚日無キニ至ル者
アリ、其甚シキハ青年ノ書生ニシテ、猶ホ其聲ニ倣フモノ
アルニ至ル、之ヲ昔時ノ士人ガ、東邸ニ駐在スルノ景狀ニ
比スレバ、更ニ甚シキヲ加フト云フモ、太過無カルベシ、其
家ニ歸テ勤勉書ヲ讀ミ、琴所其人ノ故智ヲ襲フ者無シ、蓋
シ之レフラン、吾未ダ之ヲ見ザルナリ宜ナル哉、圭運壯盛
ト稱スト雖、此學ニ還キ人ノ寥々タル、晨星如クニシテ、
品行方正ノ君子、亦ハ甘ニ地ヲ掃ハントスルコト後進ノ上、
幸ニ其志ヲ堅確ニシテ、遊戲ニ耽ケリ酒色ニ溺ル、ノ習
弊ニ薰染セラル、一勿レ

第十一

井上嘉膳戸ヲ閉テ書ヲ讀ミシ事

嘉膳名ハ照蘭臺ト號ス、江戸ノ人、幼キヨリ學ヲ好ミ、弱冠
ニシテ天野曾原ニ從ヒ、既ニシテ林鳳岡ノ門ニ入ル、元文
五年、辟ニ備前侯ニ應ジ、教授ノ職ニ任ズ、蘭臺戸ヲ閉テ書
ヲ讀ム、客ノ至ルアレバ、則チ自ラ答フル、ニ不在ヲ以テス、
客以テ戲レト爲ス、蘭臺聲ヲ勵マシテ曰ク、主人自ラ答フ
ルコト此ノ如シ、何ノ偽リカ之レアラント、書ヲ讀ムデ輟マ
ズ、

櫻所子曰ク、蘭臺ガ村正舒ニ答フル書ニ、照効ニシテ孤貧
師保ノ訓無シ、然リト雖、氏詩ヲ誦シテ雅頌アルヲ知リ、書
ヲ讀ムデ堯舜アルヲ知ル、然ル後チ困學二十年、一日ノ如
シト云フ以テ見レバ、苦學勉勵セル思フ可キナリ、而シテ
學業成熟、後チト雖、氏戸ヲ閉テ、來客ヲ謝スルニ不在

ヲ以テス、其聲ヲ勵シテ自ラ答フル者、問話ヲ爲シテ貴重
ノ光陰ヲ消費センコトヲ懼ル、ノ切ナルヲ見ルニ足レリ。
而シテ其主人自答フ、何ノ偽リカ之レアラント云フモ、
亦敢テ構思以テ人ヲ欺クコトヲ爲サズ、其易直ノ性質ヲ
想條スルニ堪タリ。世ノ名ヲ交際ニ托シ、飲酒博局ヲ事ト
シテ、分寸以テ黄金ニ値タリスベキ光陰ヲ徒消スルヲ愛
マズ、而シテ勤モスレバ不在ト稱シテ、巧ミニ來客ヲ謝ス
ルガ如キ、爲ス所全ク蘭臺ト反對シテ、其怠惰ト不信トヲ
表スルニ足ルモノ、。

第十三 伊藤莊治古語ヲ壁ニ貼シテ自ラ警メシ事
伊藤莊治ハ、錦里ト號ス。播磨赤石ノ人ナリ、其祖垣庵、其父
龍洲、共ニ儒ヲ以テ名アリ、錦里家庭ニ學ビ、經藝ヲ以テ登

トニ都門ニ著聞ス、蓋シ其父祖ヨリ三世箕裘相繼ギ、後進
ニ領袖タルヲ以テ、之ヲ奉崇スル者尤モ衆ホシ、錦里資性
慎重ニシテ、名ヲ好マズ、謁ヲ請フ者アリト雖、氏贊ヲ執ル
者、ニ非レバ、概シテ之ヲ謝絶ス、以謂ラク博交泛遊人皆其
名ヲ好ムガ爲ナリト、其越前侯ニ仕フル、殆ンド四十餘年、
數江戸若クハ福井ニ祇役スト雖、氏奉職惟レ謹ミ、外交ヲ
爲サズ、其休暇シテ京都ニ在リ、經義ヲ講説シテ徒ニ授ク
ルニ當テ、足闕ヲ履マズ、習俗應酬ノ詩文ヲ爲クラズ、而カ
レ、氏其名ハ遠ク、時輩ハ駭雅博交ヲ以テ、藝苑ニ鳴ル者ハ
右ニ出タリト云フ、錦里居ル所ノ室、壁上ニ志士不忘在溝
壑ハ孟子ノ語ヲ書キ、以テ自ラ警ム、常ニ子弟ニ訓ヘテ曰
ク、士タル者ハ、此ヲ念ハサル可カラズト、

第十四 加々美光章線香ノ光ヲ以テ書ヲ讀ミシ事
加々美光章ハ、櫻塙ト號ス。甲斐國山梨郡ノ祠官タリ。幼ヨ
リ學ヲ好ミ、國典ハ言フヲ待タズ、儒經釋典、天文曆數、算術
等、通曉セザルハ無シ。國風ハ風竹亭ノ翁ヲ師トシ、文學ハ
三宅尚齋ヲ師トス。初メ、家貧ニシテ、油ヲ焚クノ資無シ之
ヲ以テ、線香ヲ燒キ、其光リヲ假テ書ヲ讀ム。業成ルニ及デ、
名聲四方ニ聞エ、其門ニ遊ブ者甚タ多シ。光章天性勤勉ナ
ル既ニ此ノゴトク、加フルニ氣質溫厚ニシテ、行ヒ篤敬ナ
ルヲ以テ、一言ヲ交ユルモノト雖、其歸服景仰セザルハ無
カリシト云フ。

櫻所子曰ク、光章ノ學業ニ黽勉ヒル、車胤孫康ニ比スルモ、
亦敢テ慚色無シ。高堂ノ銀燭明カニシテ書ハ如ク、唯、笙歌

ヲ照シテ書ヲ照フサズ、或ハ雪ヲ積ミ、螢ヲ聚メ、或ハ線香
ヲ焚キ以テ書ヲ照ス。其勞逸苦樂、相去ル一遠シ。然リト雖、
其結果ニ就テ對較ヒバ、高樓置酒シテ、銀燭舞裙ヲ照ス
ノ逸樂ヲ事トスル者、或ハ破產喪家ニ至リ、芸窓ノ下書ヲ
讀ハテ、僅カニ凍餓ヲ免カル、ノ勞苦ヲ憚ラザル者、他年
或ハ高蓋四輪、大達ニ來往スルノ富榮ヲ取ル。古人言ハル
「アリ、曰ク、難キヲ先キニシテ得ルヲ後チニスト、世ノ
得ルヲ欲シテ難キヲ辭セントスル者、省思セスンバ、テ
ルヘカラズ。」

第十五 神屋彌左衛門文武ニ兼通セシ事
神屋彌左衛門、殺齋ト號ス。筑前福岡侯ノ世臣ナリ。著ヌル
所歸鞍吟州ニ卷アリ。其記スル所ニ據テ視レバ、同僚ノ士、

病ニ東邸ニ卧シ候駕ニ從テ歸ルヲ得ズ。侯毅齋ヲ有
護セシム。他日其病痊ヘ相伴テ西海ニ歸。時、紀行ナリ
歸程鎌倉江ノ島等。沿途ノ勝概ヲ遊觀シ之ヲ詩ニシ之ヲ
文ニシ。其懷古弔舊スル所。史傳ニ族リ議論ヲ加フ。其人ノ
文ニシテ武ナル。儒ニシテ釋ニ通ズル。一班ヲ知ルニ足
レリ。即チ卷初ニ四分律一釋典ノ名一膽病ノ五功德ヲ舉
ゲ。經經人福田中看病ヲ第一トスル。丁ヲ述ブルカ如キ。
是ナリ。而シテ其詩其文亦卓然トシテ一家ヲナセリ。卷首
享保戊戌夏。宅觀瀾ノ序。同庚子夏四月。物但徠ノ序。正徳乙
未歲釋大潮ノ序アリ。觀瀾曰ク其覽ノ富識。偉辯ノ雄ニ
シテ文、宏且ツ暢ナル。固ヨリ優然トシテ以テ通邑大都
ニ坐。絳帳ヲ褰。ゲテ青衿ヲ導ク者ト。相周旋下上スルニ

足ル宜ク。一郷ノ士ヲ以テ之ヲ視ルベキニ非ズト。又曰ク。
雲天千里。首ヲ翹ケ悠々トシテ徒ニ其名ヲ仰テ親ク其誨
ヲ受クルヲ得ズ。是恨。トスベキナリト。徂徠曰ク蓋シ其
人文武自ラ負ヒ。經生ヲ以テ自ラ見ズ。百氏ニ馳騁シ。千古
ヲ凌厲シ。玄ヲ出デ釋ニ入リ。奇正雲湧ス。其才洵ニ測ル可
カラズト。又曰ク然レ。此レ彼レニ往クヲ得ルナシ。彼レ
來ル能ハス。各天ニ斃。繫ス。徒ニ其眉宇ヲ此編ニ想フ。恨々
タラザル可ケンヤト。大潮ノ序ニ曰ク其言ヲ觀。其安ニス
ル所ヲ察スレバ。蓋シ神氏ハ宋ノ蘇長公ハ流亞歟。既チ武
亦儒亦釋。其學ニ非ルハ無シ。吾之ヲ吟州ニ知ルト。序者三
人皆當時ノ英俊ニシテ。各推奨ヲ極ムル。丁此ノ如クナル。
亦以テ毅齋ガ傑出ノ人タルヲ知ルニ足レリ。而シテ卷

中自ラ幼年ヨリ研學セシヲ叙ス。亦以テ其刻苦勉強終
ニ造詣スル所アルヲ見ルベキヲ以テ。煩ヲ憚カラズ左ニ
之ヲ抄出スベシ。即チ吟州上ニ曰ク。憶フ予年十五。家貧
フシテ書ヲ嗜ム。偶一書ヲ得ハ。則チ拜戴シテ珍寶ヲ獲ル
カ如クシ。被翫寢食ヲ忘ル。既ニシテ微官ニ奔走シ。囊東都
ニ迄ル。書肆某ト款密ナリ。暇アレハ。則チ書肆ニ入リ。閣上
ニ坐ス。四壁細帙磊落。棟ニ充ツ。意ニ隨テ抽出シ。仰テ讀
脩シテ思フ。稍飢ユレバ。懷中ノ博飯ヲ取テ之ヲ喫ス。其樂
食前方丈。待妾數百人ト雖。氏易エサルナリ。歸ルニ臨ミ
必ズ書一套ヲ借リ。携ヘ歸ル。書間塵沍。率ネ卷ヲ終フル能
ハズ。夜ニ入テ展讀且ニ達シ。尚小手ヲ釋クニ。忽ビ云々
ト。

按所子曰ク。享元ノ世。主運動興シ。人文ノ淵藪タリ。而シテ
龍騰鳳翥。名ヲ後世ニ垂ル。アリ。其名ノ高キ其實。過ク
レアリ。學問文章。志氣節操。兼テ備ハリ。其名ノ湮滅シテ聞
ユルコト。無キアリ。韜光隱德ノ士。巖穴ニ老死シ。世ヲ畢
ルマテ人ノ之ヲ知ルナキ。和漢其例多ク。黃鐘棄擲ト
レテ瓦釜雷鳴スルハ。古今社會ノ通患ナリ。刻苦々學。遐邇
ニ潛居シ。坎軻身ヲ終フ。毅齋ノ如キ其人ナリ。然リト雖。二
卷ノ吟州彩華ヲ煥發シ。三人ノ知己ヲ得テ。榮光益灼カ
ナリ。毅齋ハ平素勤勉ノ効。亦タ空シカラズト謂フベシ。

第十六 中西維寧恆ニ寢ニ就クノ無カリシ事

維寧通稱ハ曾七郎。參河ノ人ナリ。尾藩竹腰氏ニ仕フ。維寧
弱冠ニシテ。學ニ志シ。暗室ニ坐スルヲ好ム。白晝ト雖。トモ

戸○開○僅○カ○ニ○客○光○ニ○照○シ○テ○書○ヲ○讀○ミ○夜○ハ○燈○檠○ニ○對○シ○
毎○ニ○鷄○鳴○至○ル○マ○デ○凡○ニ○隱○テ○坐○睡○ス○以○テ○平○生○ト○爲○シ○竟○
ニ○寢○就○ク○コ○無○シ○歲○三○十○二○至○ル○弟○子○日○ニ○進○ミ○門○ニ○遊○ブ○
者○數○十○百○人○幾○ク○モ○無○ク○シ○テ○名○護○屋○ニ○移○ル○寬○延○中○其○主○竹○
腰○氏○ニ○從○ヒ○江○戸○ニ○赴○ク○竹○腰○氏○邸○ハ○赤○阪○門○外○ニ○在○リ○維○
寧○邸○ハ○官○舎○ニ○寓○ス○來○テ○業○ヲ○請○フ○モ○ノ○筆○ヲ○ト○シ○テ○已○マ○ス○
遂○ニ○命○ジ○テ○邸○ヲ○出○テ○都○下○ニ○寓○居○セ○シ○ム○博○ク○四○方○ノ○士○
一○教○授○ス○ル○タ○メ○ニ○費○銀○ヲ○賜○與○セ○ラル○是○ニ○於○テ○講○堂○ヲ○建○
三○島○坊○ニ○ト○築○シ○叢○桂○舎○ト○云○フ○竹○腰○氏○事○ヲ○レ○バ○則○チ○吏○ヲ○
シ○テ○之○ニ○就○テ○咨○問○セ○シ○ム○議○政○ノ○事○非○レ○ハ○敢○テ○召○サ○ス○
召○ヒ○ハ○必○ス○駕○ヲ○以○テ○ス○恩○遇○太○ダ○厚○シ○而○シ○テ○四○方○ノ○士○風○
嚮○テ○輻○湊○シ○其○聲○譽○時○聞○ニ○維○寧○敦○厚○沈○默○人○ト○競○ハ○ス○

交遊極メテ寡ク盛名有リト雖氏行ヒ本ニ由ラザル者ハ
辭シテ之ヲ見ルナシ恆ニ名節ヲ以テ人ヲ勵ゲマシ其涵
濡ノ化自然ニ門人ニ及ビ其才ヲ育シ德ヲ養フ即チ博綜
練達驚東柯ノ如キ雅量淹通飛圭洲ノ如キ捷敏應詔河天
門ノ如キ篤學謹行紀平洲ノ如キ信恆直諫伊東冠奉ノ如
キ皆ナ得易スカラサル所ニシテ世儒ノ偏ニ文藝ノ之ヲ
以テ後進ヲ鼓動スル者ト迥カニ異ナリ維寧病篤キニ至
リ弟子ヲシテ之ヲ扶起セシメ凡ニ隱テ尚ホ講ヲ續メス
將サニ起サラントスルヲ知リ筆スル所ハ著數本ヲ奉ケ
テ悉ク之ヲ燒カシム弟子皆之ヲ惜ム乃チ曰ク未定ノ書
ナリ恐クハ後世ヲ誤ラント僅ニ文集十三卷ヲ以テ之ヲ
紀平洲ニ屬シ遂ニ寶曆二年七月ヲ以テ芝三島坊ノ寓ニ

歿フ。歳四十四。弟子多ク心喪ヲ服スト云フ。
櫻所子曰ク。維寧ノ學ニ志シ。凡ニ隱テ坐睡シテ寢ニ就カ
ザリシヨリ。其病篤キニ及ビ。尚ホ凡ニ隱テ講ヲ授メサリ
シト云フ者。其以ヨリ死ニ至ルマデ。篤志ヲ學終始一ノ如
クナルヲ見ルニ足レリ。然而シテ名節ヲ以テスヲ勵マシ。
迄交ヲ好マス。筆スル所ノ著數本ヲ燒クカ如キ。其敦厚恭
謙ナルノ一斑ヲ窺フニ足レリ。宜ナル哉。一時ノ名儒多ク
其門ヨリ出デタリシ。今世ノ學者。其篤志ヲ學。尋常ニ超
出スル所無クシテ。聲譽ヲ一世ニ馳セシメ。猶ホ貨物ヲ
有スルヲ多カラシメ。貿易市場ニ巨利ヲ攫セントスル
カ如シ。假令之ヲ得ルモ。一時ノ虛名空譽ノミ。久ク持ムベ
キモノニ非ズ。

第十七 蘆野孝七郎幽囚セラレテ書ヲ著セシ事

孝七郎ハ東山ト號ス。元祿九年。陸奥ノ磐井郡。澁井村ニ生
マル。家世農桑ヲ業トス。東山四五歳ニシテ。神史ヲ見ルヲ
好ミ。九歳ノ時。挑井素忠ニ從テ。句讀ヲ受ク。一二年ニシテ。四
書五經ヲ讀了ス。稍長ズルニ及ビ。仙臺ニ遊ビ。富商大和屋
久四郎ノ家ニ寓ス。江戶ノ人吉田需軒ト云者。仙臺ニ遊ビ。
唯モ下ダシテ生徒ニ教授ス。東山從テ其講ヲ聞ク。一五年。
又京都ニ遊ビ。業ヲ三宅尚齋ノ門ニ受ケ。又長崎ニ之キ講
説シテ。徒ニ授ク。其名稍諸儒ノ間ニ顯ハル。仙臺中將吉村。
遙ニ召シテ。儒官ト爲シ。祿若干ヲ賜フ。時二年一十六。東山
府學ヲ設ケンヲ建議ス。富商鈴木八郎左衛門。其事ヲ聞
キ。金二萬兩ヲ出シテ。興造ノ費資ヲ助ケント請フ。八郎左

衛門ハ、嘗テ東山ニ學ブ者ナリ。東山之ヲ大夫ニ言フシ、遂ニ國侯ニ上疏ス。侯之ヲ許可シ、經營區畫、各壯大ヲ盡クシ、接棟砌瓦、皆宏麗ヲ極ハム。三年ニシテ成ルヲ告グ、匾シテ明倫堂ト曰フ。仙臺府學ノ盛ナル、諸藩ニ過ガルモ、其端ハ實ニ佐久間洞巖ト、東山ハ創始スル所ナリ。東山資性剛直ニシテ、權要ヲ避ケズ、嘗テ學舎ニ於テ諸有司ト其班次ノ高卑ヲ爭フ。アリ東山捍言シテ曰ク、經筵ノ習儀ハ卿等ヲ待タズ、執法大夫ト雖、此事アル無シト。有司答フル「無クシテ去ル。後々之ヲ卿ミ、勅スルニ藩制ヲ侮蔑シ、舊典ヲ遺棄スルヲ以テス。遂ニ之ガ爲メニ坐セラレ。加美郡宮崎村、石母田長門ガ郷中ニ幽囚セラル。其囚所ニ在ルハ、二十四年、赦ニ遭フテ郷里ニ放歸ス。時ニ歲六十六。東山ハ、

幽囚ニ在ルヤ、憾ムル所アリテ、無刑錄十四篇ヲ著シ、略秋官ハ遺意ヲ述ブ。後々其書世ニ傳フ。識者稱シテ深意アリト爲スト云フ。東山晩年又仙臺ニ遊ビ、生徒ニ教授ス。安永五年、歲八十一ニシテ歿ス。

櫻所子曰ク、東山邊土僻陋ノ農家ニ生長シテ、學ニ志シ、千里策ヲ負フテ良師ヲ求メ、汲々トシテ倦怠スルヲ無ク。幽囚セラレ、一廿四年、又敢テ屈撓ノ色無シ。書ヲ著シ、道ヲ講ジ、鐸ヲ一方ニ振フ。其篤志力學、知ルベキナリ。其耐忍剛毅、思フベキナリ。今日ヲ以テ昔時ト對較セバ、書籍ヲ購求スルモ、師ヲ求メテ旅行スルモ、舟車ノ便否、道路ノ險夷、相距ルヲ果シテ如何ゾヤ。苟モ篤志力學、敢テ怠懈セズンバ、邊僻僻地、雖、其便ハ昔時都府ニ生ラル者ト殊ナル。

無カラシ。然レバ則チ勞苦ハ、東山其人ニ半バンテ。功ハ必ズ之ニ倍セン。

第十八 石多仲曆子一冊ヲ廁中ノ壁ニ糊塗セシ事

石多仲ハ瀬濱ト號ス。奥州潮ノ上村ノ農家ニ生ル。幼ニシテ學ヲ好ム。長ズルニ及ビ、江戸ニ遊ビ同地方ノ人ナルヲ以テ、餘熊耳ニ學ブ。瀬濱熊耳カ塾ニ寓スル十年、日夜誦讀シテ怠ラズ。其几ニ對スル座下足著ク所爲メニ穿ム。又毎年臘月ニ至レバ、必ズ曆子一冊ヲ買ヒ、之ヲ廁中ノ壁上ニ糊塗ス。其記性モ亦人ニ過グ。廁ニ之ク一十二次ニシテ、來歲十二月ノ支干ノ運動時令ヨリ、晝夜ノ短長、節氣旺相ニ至ルノ事ヲ暗記ス。而シテ後チ其糊ヲ去ル。以爲ク曆子ヲ展卷スル。則ニ之クノ間ニ在ルトキハ、別ニ寸晷ヲモ費サ

ズト。年二十九ニシテ、帷ヲ芝ノ三田ニ下ダス。生徒稍集マル。其名時ニ顯ハレ、業將サニ大ニ行ハレントス。歲三十八ニシテ、疫ヲ病ムデ歿ス。時寶曆八年ナリ。

櫻所子曰ク、瀬濱東奥ノ一村落ニ生長シ、其學ニ志シテ都門ニ留寓スル。廁ニ上ボルノ間モ、敢テ光陰ヲ空フセズ。宜ナル哉。其業將サニ大ニ行ハレントスルニ及ベル。惜ムラクハ天之二年ヲ假サズシテ、大成ニ至ラズ。然リトイヘドモ、其勉學怠ラザリシハ、以テ後進ノ標準ト爲ス可キナリ。

第十九 莊田靜志ヲ立テ忠誠ヲ以テ自ラ勗メシ事

莊田靜琳菴ト號ス。以フシテ谷一齋ニ從テ學ブ。志ヲ立テ忠誠ヲ以テ自ラ勗ム。僅カニ弱冠ニ踰エ、其學既ニ通ジ、尤

モ談論ニ長ス。龜山侯（松平伊賀守忠晴）一タビ其通鑑
綱目ヲ講スルヲ聞キ之ヲ喜ブ。祿百五十石ヲ以テ之ヲ聘
ス。琳菴起テ之ニ應ジ。仕ヘテ侍讀トナル。歲二十八。琳菴天
資溫柔。退然トシテ衣ニ勝ヘザル者ハ若シ。而シテ人ト得
失ヲ論辯スルニ至テハ吐歎詰責利害ヲ避ケス。謗ヲ以
テ人皆之ヲ忌憚ス。遂ニ奸人ハ讒構スル所ト爲リ。圜ニ
下ル。嘗テ獄吏問答一卷ヲ著ス。經史ヲ諸記スル數千言。
字ヲ外マラス。獄ニ在ルコト四年。延寶二年十月ヲ以テ
棄市セラレ。

琳菴才識淵茂。常ニ學者ノ志アリテ。行ヒ未ダ果斷ナラ
サル者ニ説テ曰ク。學ハ當サニ水ヲ習フカ如クスベジ之
ヲ淺處ニ習ヒ。而シテ後チ深キニ向フ。淺溺シテ死セント
欲スル者數次方ニ始メテ功ヲ見ル。若シ其溺ルヲ懼レ
テ淺處チ離レ得テ了セザレバ終身水ニ在リト雖氏亦數
尺ノ水ヲ游泳スルヲ能ハズト。

櫻所子曰ク。柳原篁洲ノ言ニ曰ク。天下ノ技藝ニ各四等ア
リ。一ニ曰ク。下手。二ニ曰ク。功者。三ニ曰ク。上手。四ニ曰ク。名
入。上下三千年。縱橫一萬里。存スル所此ニ出デズ。學者ハ道
ニ於ケルモ亦然リト。琳菴ノ所謂終身水ニ在リト雖ドモ。
亦數尺ノ水ヲ游泳スルヲ能ハザルハ下手ナル者ナリ。泳
ヒテ能ク數里ノ波濤ヲ凌グ者ハ上手ナル者ナリ。而シテ
其下手タリ上手タル所以ノ本ハ他ナシ。淺溺セントスル
ヲ懼レテ淺處ヲ離レ得ザルト。敢テ淺處ヲ離レテ深キニ
向フトニ由ル。夫レ安佚ハ淺處ナリ。辛苦ハ深處ナリ。辛苦

ヲ歷嘗シテ、凍餓セントスル者數次ニ至ルガ如クンバ、其方ニ始メテ功ヲ見ルヲ得ルヤ必セリ。然ルニ今世ノ學術、技藝ニ志ス輩、多クハ其衣ハ麗ヲ欲シ、其食ハ鮮ヲ求メ、而シテ大ニ得ル所アラント欲ス。我恐クハ終身學術技藝ニ從事スト雖、所謂下手タルヲ免ガレザランヲ、何ゾ名人若クハ上手ノ地位ニ達スルヲ得ンヤ。況ヤ躁進ヲ戒ムルヲ知ラス、已レガ學ビ得タル所ヲ沽ラントスルニ急ナルヲヤ。苟モ其學ビ得ニ於テ、上手ト呼ビ名人ト稱セラレシヲ望マバ、須ラク没溺シテ死セント欲スルニ至ル。辛苦艱難ヲ辭ス可カラザルナリ。

第二十 細井德民篤志力學ニ由テ德望ヲ得タル事
德民平洲ト號ス。享保十三年、尾張ノ南郡平洲村ニ生ル。家

世農ヲ以テ業トス。平洲幼ニシテ讀書ヲ好ミ、歲十七ニシテ、京都ニ遊學セシト、請ヒ單身ニシテ之ニ赴ク。伊勢ノ人北畠世規ト云者ト、舍ヲ同フシテ僑居ス。垢衣弊帶糲ヲ食ヒ、蔬ヲ齒ミ、務メテ費用ヲ儉ニス。是ヨリ先ギ父正長之ガ爲ニ金五十兩ヲ與ヘ、其用ニ適セシム。京ニ在ルヲ一年十兩ヲ費消ス。其餘ヲ以テ書數百卷ヲ購得シ。歸期ニ及ビ、兩馬ニ駄シテ還ル。鄉里皆以テ是ヲ異人ト稱ス。平洲ノ京都ニ遊學スルヤ、遍ク諸儒ニ謁ハシ、學識品行ノ師資トス可キ者ヲ見スシテ乃チ郷ニ歸ル。父母其持操ト見奉リ、喜ビ、將サニ田宅ヲ分ツテ生理ヲ爲シメシム。平洲可カズシテ曰ク、願クハ二百金ヲ得テ兒ガ欲スル所ニ從ハシム。乃チ之ヲ許ス。盡ク書ヲ買テ之ヲ讀ミ、足戶外ニ出テサ

此。此。一。年。自。ラ。謂。フ。是。レ。吾。カ。師。ト。ス。ル。所。ナ。リ。ト。延。享
中。參。河。元。淡。淵。始。メ。テ。名。護。屋。ニ。來。テ。生。徒。ニ。教。授。ス。平。洲
往。テ。之。ニ。謁。シ。相。與。モ。ニ。經。史。ヲ。商。榷。シ。大。ニ。其。學。識。ト。品。行。
ト。服。ス。以。爲。ク。師。事。ス。人。ヲ。得。タ。リ。ト。淡。淵。稱。シ。テ。以。テ。吾
ガ。業。ヲ。羽。翼。ス。ル。者。ト。爲。ス。平。洲。廿。四。歲。ニ。シ。テ。惟。ヲ。名。護。屋
ニ。下。ダ。シ。テ。教。授。ヲ。業。ト。爲。ス。幾。ク。モ。無。ク。江。戶。ニ。至。リ。芝。二
寓。ス。淡。淵。歿。ス。ル。ニ。及。ビ。其。門。ノ。諸。子。皆。ナ。平。洲。ノ。門。ニ。入。ル。
平。洲。ノ。名。始。テ。江。湖。ニ。噴。々。タ。リ。平。洲。江。戶。ニ。教。授。ス。ル。二。十
年。許。リ。講。業。ノ。盛。ナ。ル。殆。ン。ド。虛。日。無。シ。出。テ。ハ。則。チ。列。侯。ノ
講。筵。ハ。テ。ハ。則。チ。在。塾。ノ。子。弟。ヲ。教。育。シ。惟。レ。日。足。ラ。ズ。當。
ニ。經。學。文。章。ノ。ミ。ナ。ラ。ズ。世。稱。ス。ル。ニ。其。人。ノ。經。濟。ニ。長。ズ。ル
ヲ。以。テ。ス。王。侯。貴。紳。請。テ。以。テ。師。ト。爲。ス。或。ハ。重。祿。ヲ。以。テ。之。

召。カ。ト。欲。フ。ル。者。ア。レ。凡。辭。シ。テ。仕。ヘ。ズ。私。心。竊。カ。ニ。謂
ラ。ク。已。ム。ト。無。ク。ン。バ。則。チ。仕。ヘ。ン。尾。ハ。我。ガ。墳。墓。ノ。在。ル。所
ナ。リ。仕。フ。レ。バ。則。チ。豈。他。ア。ラン。ヤ。ト。年。五。十。二。シ。テ。尾。侯。ノ
召。ニ。應。ジ。テ。侍。讀。ト。ナ。リ。督。學。ヲ。兼。ネ。シ。メ。田。祿。四。百。石。ヲ。賜
フ。平。洲。尾。藩。ニ。督。學。タ。リ。シ。ヨ。リ。國。ノ。耆。儒。及。ビ。弟子。若。干。人
ヲ。薦。メ。テ。學。職。ニ。充。ツ。國。中。ノ。民。皆。來。テ。教。ヲ。受。ケ。ザ。ル。ナ。シ。
學。政。大。ニ。振。フ。之。ヨ。リ。先。キ。平。洲。年。四。十。四。米。澤。侯。上。杉。治。憲
ノ。聘。ニ。應。ジ。テ。其。國。ニ。往。ク。侯。聰。明。ニ。シ。テ。志。ヲ。成。ル。專。ラ
ニ。シ。平。洲。ヲ。尊。ム。テ。賓。師。ト。爲。シ。禮。待。優。渥。ナ。リ。其。言。ヲ。嘉。納
シ。舊。弊。ヲ。洗。滌。ス。留。リ。居。ル。一。年。ニ。シ。テ。歸。ル。關。境。比。隣。雜
然。ト。シ。テ。風。ニ。嚮。ス。安。永。中。米。澤。ノ。國。學。興。讓。館。新。築。成。ル。侯
再。ビ。平。洲。ヲ。其。國。ニ。招。キ。得。失。ヲ。詢。謀。シ。政。刑。ヲ。參。定。ス。又。平。

別ト封内ニ巡行シ。使役ノ煩劇ト。民間ノ疾苦トヲ覆撫シ。
百廢悉ク舉ガリ。豐施下ニ遍ネシ。衆民大ニ悦ビ。平洲ガ途
ニ過グルヲ見。感歎シテ淚ヲ垂レ。拜跪合掌シテ。大慈大悲
ノ活如來様ト謂フニ至ル。亦留ル一年ニシテ歸ル。是ヨリ
後々米澤封内治教ノ績。海内ニ顯聞シ。稱シテ當時ノ第一
ト爲ス。此ノ如クナルヲ以テ。平洲晩年ニ至リ。學識德望並
ビ高ク。世ノ所謂儒者ニハ非ルナリ。凡ソ王卿侯伯。每ネニ
平洲ト語ル。必ズ人ヲ屏ケテ時ヲ移ス。或ハ書讀ノ來ル。讀
ミ了レバ多クハ手ヅカラ之ヲ焚ク。蓋シ其封國衆邑ノ政
令。綱紀機密。及ビ政事典型。必ズ預メ知ルアリ。然レドモ口
ヲ箝ンテ一ヒ言ハズ。病革ナルニ及ビ。書牘數十通。猶未篋
寄ニ在ル者ハ。門人ニ遺言シテ。悉ク之ヲ其主ニ返ス。是ヲ

以テ家人ト雖モ。其詳カナルヲ知ル能ハザリシト云フ。
櫻所子曰ク。我邦門地ヲ以テ爵祿ヲ世襲スル。外邦ノ人爵
アル者布衣ヨリ起テ王侯ノ師トナルヲ得ルガ如キニ非
リシナリ。然ルニ平洲尾ノ南鄙ニ生レ。畎畝ノ一匹夫ニシ
テ。而シテ其篤志力學。孜々トシテ怠ラザル。遂ニ公侯縉紳
ノ賓師トナリ。若クハ其顧問ニ備ハリ。有士ノ大諸侯モ。優
渥ナル禮待ヲ以テスルニ至リ。其言行ハレ其計用井ラレ
澤被民。及フ。何ゾ其レ盛ナルヤ。況ヤ今日材能ヲ以テ
爵祿ヲモ取ルベク。事業ヲモ興ス可キノ昭代ナルニ於テ
マヤ。後進ノ士。平洲ガ地下ニ含笑スル所トナルヲ無カラ
ンヲ勉メヨ。

第廿一 並川彌右衛門論語ヲ讀ムヲ聞キシ事

並川彌右衛門ハ、享保時代ノ人ニシテ、丹波並川村ニ生ル。
山城鳥羽ニ出テ、米商ヲ業トセリ。其子五一郎歟キ時、人
ヲ雇フテ四書ノ素讀ヲ爲サシム。一日論語ノ吾黨ニ躬ヲ
直フスル者アリノ章ヲ讀ムヲ聞テ曰ク。是レ太ダ怪ムベ
キヲナリ。子トシテ父ノ惡ヲ發バク。何ゾ直シト謂フヲ得
ンヤト。次ニ孔子ノ吾黨ノ直キ者ハ、コレニ異ナリノ言ヲ
聞キ。理宜ク此ノ如クナルベシ。孔子ハ尊ブベキ人ナリト
云ヘシトゾ。

櫻所子曰ク。此事酷ダ石勒ガ漢高六國ノ後ヲ立ントセシ
ヲ聞キ。此法當固失トイヒ。張子房ノ諫メンヲ聞キ。幸有此
事ト云フニ似タリ。嗚呼未ダ學ハズト雖モ、之ヲ學ゼタリ
ト謂フベキモノ。彌左衛門在リ。諺ニ。所謂論語ヲ讀ム論

語ヲ知ラサル徒。一商估ニ愧ル無キヲ欲フト雖モ、得ベカ
ラス。

第廿二 應舉心ヲ專フニシテ繪事ニ刻苦ヒシ事

天明中。京都ニ應舉字ハ仲選ト云者アリ。性畫ヲ好ム。以爲
ク肖貌寫生。物コトニ其精ヲ極メント欲スレバ。畢生力ヲ
殫スト雖モ得ベカラズ。其性ノ近キ所ニ因テ。其妙ヲ窺フ
ニ若カズト。即チ雞及ビ狗子ヲ描ク。應舉初メ雞ヲ描クヤ。
自ラ謂ラク。飲啄鳴號ノ狀。振翮修羽ノ態。既ニ其肖似ヲ得
タリ。但風神氣骨。天氣活潑ノ妙。猶ホ未ダ其精ヲ盡サズト。
乃チ日ニ祇園祠ニ至リ。雞ノ群ヲ爲ス者ヲ視。凝立シテ動
カズ。人以テ痴呆ト爲ス。而シテ顧ミザルナリ。此ノ如クス
ル者年アリ。一日恍然トシテ悟ルアリ。自ラ顧ルニ滿腔皆

雞ナリ。因テ試ミニ掩障ニ就テ之ヲ寫ス。神衆生動ス。真ト
辨ズル無シ。之ヲ祇園祠ニ獻ズ。人皆其巧手ナルヲ驚歎シ
タリ。應舉猶ホ彼畫雞ヲ視テ。如何ナル批評ヲ爲ス者アラ
ント。門生ヲシテ日ニ祇園祠ニ至リ。其評スル者アルヤ否
ヤヲ窺ハシム。觀ル人唯其妙技ヲ感ズルノミ。一日賣蔬翁
アリ。掩障ヲ望ムデ佇立スルヲ以時。獨語シテ曰ク。雞ノ傍
ニ草ヲ描カザリシハ最モ可ナリト。其去ルニ及ヒ。門生尾
シテ往ク。東洞院ニ至リテ。門道ニ入ル。門生歸テ此事ヲ
語ル。應舉翌酒肴ヲ携ヘ翁ノ家ヲ訪ヒ。懇ロニ教誨ヲ乞フ。
翁ガ曰ク。吾畫ヲ知ル者ニ非ズト雖氏。嘗テ雞ヲ畜養セシ
ニ。羽色ノ四時ニ變ズルヲ記臆セリ。足下ノ描キタルハ。冬
ノ羽色ニシテ。殊ニ精妙ナリシカバ。其傍ニ草ヲ描カレザ

リシヲ歎賞シテ。覽ヘズ獨語セシノミト。
應舉或時卧猪ヲ寫サント欲シ。斯事ヲハ瀬ノ賣柴女ニ語
ル。女曰ク我カ村落ニ放テハ數猪ヲ見ルヲ得ト。一日女來
テ告ク。吾屋背ナル竹林ニ一猪ノ來リ卧スアリト。應舉直
チニ之ト伴テ往キ見ルニ。大ナル猪ノ眠レルアリ。故ニ熟
視シテ之ヲ寫ス後。鞍馬ヨリ來テ炭ヲ賣ル翁アリ。此畫
ヲ眎ス。曰ク。是ハ病猪ニシテ卧猪ニ非ズ。何トナレバ猪ハ
眠ルト雖氏。其背上怒毛疎墜スル者ナリ。此畫ハ定メテ病
メル猪ノ卧シタルヲ視テ寫シタルナラント。應舉他日前
ハ瀬ヨリ來ル婦ニ問フニ。彼猪ハ二三日ヲ經テ其處ニ
死セリト云フ。之ニ由テ應舉更ニ真ク卧猪ヲ視テ。之ヲ寫
シ。世ノ喝采ヲ得タリ。當時應舉ガ名聲翹然トシテ一時ニ

甲タルヤ。斷續零指人爭ヒ購フニ重賞ヲ以テセリト云。
櫻所子曰ク。應舉カ心ヲ專ラニシ。思ヲ致ス。此ノ如クニシ
テ。務メテ人ノ言ヲ聞キ。以テ益ヲ得ルヲ欲ス。宜ナル哉。技
其妙ヲ極ム。名モ亦隨テ著ハレタルヲ。夫レ世上百般ノ學
藝技術。未ダ嘗テ師友切劘ノ功ニ藉テ。其美ヲ成サズンバ
アラサルナリ。今夫レ大都通邑人文ノ淵藪ニシテ。一技一
藝アル者。各々幟ヲ一方ニ樹テ。良師益友其人ニ乏シカラ
ズ。或ハ同僚タリ。或ハ朋友タリ。臂ヲ交ヘ膝ヲ接スルモ。就
テ其學ヲ所ヲ正ス。ヲ知ラズ。語偶其文章議論ノ疵瑕ニ及
ブバ。輒々拂然トシテ怒リ。面ニ顯ハレ。人ノ指摘スルヲ嘆
ル。故二人ノ瑜揚ヲ悦ビ。傲然トシテ自ラ夸テ曰ク。我學藝
天下ニ敵無シト。諸レヲ已ニ反求スレバ。果シテ益スルト

口ア。カ。將々損スル所アルナリ。嗚呼俗日。澆漓ニシ
テ。學術技藝ノ進歩顯著ナルモノ鮮シ。應舉ノ事以テ。漓俗
ニ鍼砭ス可シ。豈ニ唯繪事ノミナラムヤ。世ノ文章議論ニ
長ジ。學術技藝ニ老タルヲ以テ。稱シテ名家鉅匠ト爲スモ
ノ。以テ識ムルヲ知ル可シ。豈ニ唯後進者ヲシテ。驕心ヲ生
ゼシメザルノ資ト爲スヘキノミナランヤ。

第廿三 森祖仙三年山ニ在テ其技ヲ切磋セシ事

森祖仙ハ。大坂ニ在テ猿ヲ畫クニ名アリ。初メ長崎ニ在リ
シ時。獵者ニ托シテ。猿ヲ得タリ。因テ之ヲ庭樹ニ繫キ。
其傍ニ在テ猿ノ狀貌ヲ熟視シ之ヲ寫ス。鍛鍊スル。丁。年。
リ。稍其真ニ逼ルヲ覺フ。遂ニ之ヲ絹素ニ淨寫シテ。清客某
ニ跡シ。其批評ヲ乞フ。客曰ク。惜クハ此レ人家畜養ノ物ナ

ニシテ、天然ノ趣ニ非スト。祖仙之ヨリ、更ニ奮勵シ、深山ハ
中ニ棲遲シ、木石ト居リ、猿鶴ト群ヲ成ス。ヨ三年、遂ニ其真
一通ルハ、妙ヲ得タリトイフ。

櫻所子曰ク、夫レ畫ハ一小技ナリ。然レ氏其業ニ從事スル
者、技ノ精妙ナルヲ欲スレバ、カヲ用ユルヲ此ノ如シ之ヲ
以テ遂ニ其妙ニ至ル。況ヤ技ノ畫ヨリ大ナル者ニ於テ。

第廿四 熊代彦之進虎園ノ前ニ在テ虎ヲ畫キシ事
彦之進名ハ斐、繡江ト號ス。世人通稱ヲ言ハス。熊斐ヲ以テ
知ラル。肥前長崎ノ人ナリ。幕府ノ譯官タリ。人トナリ膽氣
アリ。清人沈南蘋ニ從テ畫ヲ學ビ、畫名ハ世ニ高シ。或時台
命ヲ奉ジ、虎ヲ畫ク。恰モ好シ。番船虎ヲ載セ來リシニ際

ス。斐紙ト、筆硯トヲ携ヘ、虎園ニ近キ、肖貌寫生。其精ヲ極メ、
ハトセシニ、虎蹲踞シテ、頭ヲ舉ゲズ。斐其動作ハ態ヲ見ル
ニ由ナキヲ以テ、傍ニ在ル侍頭ヲ執テ、虎ヲ毆ツ。虎大ニ怒
リ、忽チ頭ヲ擡ゲテ、斐ヲ嚇ス。電目人ヲ射テ爛々タリ。傍人
皆驚悸シテ奔リ避ク。斐獨リ、自若トシテ、虎ノ狀貌ヲ熟視
シテ之ヲ寫セリ。始メ驚悸奔避ヒシ者、其膽勇ニ服セリト
イフ。

櫻所子曰ク、獸虎ヨリ猛ナル無シ。膳臣巴提使ガ虎ヲ斬ル
ガ如キハ、勇武ヲ以テ名ヲ得タル人、宜ク然ルベシ。彼如藤
嘉明ガ、虎ヲ牽テ前ヲ過グル者アリ。傍人喧噪シテ走り避
ク。嘉明ノミハ柱ニ倚テ坐睡シテ知ラサル者ノ如ク。少時
アツテ目ヲ開キテ、何ゾ太ダ喧キ。虎ヲ牽テ過クル者アリ

シヤト云ヒシガ如キ、豐公ノ麾下ニ指ヲ屈スルノ猛將ナ
レハ、又宜ク此ノ如クナルベシ。斐ハ一介ノ譯官ニシテ、畫
ニ巧ミナル者ノミ、然カモ能ク虎園ノ前ニ在テ筆ヲ揮ヒ、
之ヲ毆打シテ、震怒ノ態ヲ熟視シテ動カズ、我ハ其膽勇ニ
驚カズシテ、其畫ニ篤志ナルヲ嘆スルナリ。斐ガ畫ノ爲メ
ニ勉ムルノ至レル此ノ如シ。其寫出セル所ノ虎亦必ズ狗
ニ類セズ、眼中自ラ百歩ノ威ヲ具ヘシナラム。斐ガ丹青ヲ
以テ、名ヲ一世ニ擅ニセシモ亦宜ナリ。一技ニ長ズル者其
カヲ用ユル、虎威ヲモ避ケズ、今ノ書ヲ讀ミ道ヲ知ラント
スル者ニシテ、猶ホ風雨寒暑ヲ懼ル、豈一畫師ニ羞ルナギ
ヲ得ンヤ。

第廿五

池無名發憤苦勵セシ事

池無名字ハ貸成、九霞山樵ト號ス。京都ノ人ナリ。世ニ大雅
堂ト稱スル是ナリ。書ヲ善クシ畫ヲ巧ミニス。書ハ晉唐ノ
古帖ニ刻意シ、結體飄逸、自ラ一家ヲ成ス。畫法ハ則チ梅道
人倪雲林ノ間ニ出入シ、專ラ氣韻ヲ以テ主ト爲ス。山水尤
モ清絶ナリ。世人爭テ之ヲ購フ。零露斷楮ト雖、尺寶重セザ
ルハ無シ。是ヨリ先キ、狩野氏土佐氏世畫苑ノ冠冕ト爲ル
其ノ衣鉢皆宋元諸名家ニ出ヅ、而シテ授受寢其真ヲ失ヒ、
卒ニ變ジテ等俗トナル。有志ノ士其弊ヲ矯メテ之ヲ復セ
ント欲シテ、力以テ之ヲ振フニ足ラス。獨リ貸成才最モ高
ク、志最モ篤シ、勤メテ必ズ法ヲ獲且ニ取ル、而シテ時人未
ダ之ヲ信ゼズ。嘗テ畫扇ヲ賣ラシ、尾濃諸列ニ遊ブ、一握モ
售ハズ、困ムデ歸リ、瀬田ノ橋ニ抵リ、悲ク之ヲ水中ニ投ジ。

益發憤苦勵シテ遠ニ古人ノ堂奥ヲ窺フ。名聲隆々然トシテ海内一震フ。而シテ畫ヲ言フ者宋元諸家ヲ以テ準據ト爲サ、ル無キニ至ル。貸成性山水ヲ好ム。又齊勝ノ具ニ富ム。千里孤往。月ヲ經テ返ルヲ忘ル。層巒複嶺。飛屐上下ス。其高峻ヲ極メザレバ止マズ。最モ富士山ヲ愛シ。屢之ニ登ル。毎ニ其路ヲ異ニス。榛莽ヲ披キ。狐兔ノ蹊ヲ攀キ。人迹ハ未ダ至ラザル所ヲ究ム。先後作ル所。富士山ハ圖凡ソ一百嶺。橫側正偏其奴ヲ備極シ。天下ハ絶筆ト爲ス。櫻所子曰ク。大雅堂嘗テ画扇ヲ齎ラシテ尾濃ニ遊ブヤ。一握モ售レズ。其能ク古人ノ堂奥ヲ窺フニ至テハ。則テ零縑斷楮ト雖氏人爭テ之ヲ購フノミナラズ。海内ノ畫風ヲ一變シ。狩野氏土佐氏ノ二流ヲ壓倒スルニ至ル。其天下ノ絶

筆ト稱セララル。ヲ以テ。今ニ至ルマデ其畫幅ヲ傳フル者ハ。十襲珍藏ス。貸成何ヲ以テ其妙ヲ極ムルコト此ノ如クナルヲ致セシヤ。曰ク其志ノ最モ篤クシテ。發勵苦勵セシニ由ルノミ。其人タル襟度蕭散塵垢以テ其懷ヲ潤セサルヲモツテ。奇致空涌スト云フガ如キハ。抑モ末ナリ。

第廿六 皆川淇園讀書ニ勤勉セシ事

淇園又錦齋ト號ス。京都ノ人ナリ。年四五歳ニシテ早ク文字ヲ識レリ。其父試ミニ杜少陵ガ秋興八首ノ詩ヲ書シ與ヘシニ。日アラズシテ記臆セリ。是ヨリ讀書ヲ課トス。督促ヲ煩サズ。其父恆ネニ世儒記誦ノ學ヲ賤視シ。嘗テ明經弘道ニ志シアリト雖氏。年已ニ老タレバ。其事業ヲ成就スルコト難シトテ。淇園及ビ其弟成章ニ命ジテ。其志ヲ繼ガシ

ノ經史百家ノ書ノ聞見ヲ資ケ。學識ヲ長ズベキ者ハ。需ム
ルニ隨テ之ヲ與ヘ。當時ノ宿儒博學ノ人々ニハ。普ネク交
リヲ結ビテ來往セシメタリ。成章ハ。人ノ辨論スル所ヲ聞
テ。輒チ曉通シ。言ノ畢ルヲ待タズ。淇園ハ。蒙昧ニシテ通ゼ
ザル者ノ如ク。詳悉ニ疑ヒテ。質サレバ止マズ。人ヨクニ
子ノ優劣ヲ辨ズルヲ無シ。然レトモ凡ク古今ノ載籍ニ涉
リ。見ルコト罕レナル者ニ至テハ。必ス搜索ヲ窮メテ。窺ハ
ザル所無キハ。成章遠ク淇園ニ及バズトス。淇園或時其作
ル所ノ文ヲ一老儒ニ示シテ。正ヲ乞フ。輒チ數字ヲ改メタ
ルノミ。其字義ヲ問ヘバ。改メタル文字。稍優ルヲ覺ユト答
ヘテ。其優ル所以ヲ説カズ。淇園竊カニ謂ク。文ヲ綴ルニ字
義ヲ知ラズシテ。豈可トランヤ。況ヤ經義ヲ解スルヲヤト。

之ヨリ。心ヲ字學ニ傾ケ。沈潛反覆シ。字典ノ訓詁也者。多ク
ハ假借ニシテ。實ヲ得ルコト難シ。古人ガ字ヲ用ユルハ。例
ヲ類集シテ。其理ヲ考覈シテ。通曉スルニ如カズト。象形ニ
由リ。聲音ニ求メ。始メテ言外ノ妙所ヲ得之ヲ。六經ニ徴シ。
子史ニ照シ。旁引會通。以テ審カニ。孝悌忠信。仁義道德ヲ。釋
シテ。名疇六篇ヲ作ル。且ツ易詩書儀禮戴記。春秋論孟學庸
ノ譯解。凡ソ數百萬言。皆世ニ行ハル。其易ニ於テカヲ用ユ
ルコト最モ深シ。義ヲ思フテ得ザレバ。終夜寐ネズ。晨起机
ニ對シテ。明ヲ俟チ。食スルニ方テモ。書ヲ傍ラニ置キ。且ツ
食シ且ツ讀ミ。晷ノ移ルヲ覺ヘズ。又門人ノ來テ教ヘヲ乞
フアリ。若クハ客來テ談話スルアル氏。机ニ對スルマヽニ
シテ。座ヲ移スコト無シ。門人退キ客去レバ。書ヲ讀ムコト

復々初ノ如シ故ニ奴婢ノ其室内ヲ掃フアリ氏淇園ノ座ニ及ブ能ハズ一日淇園ノ出タルヲ窺ヒ北邊ノ座ヲ掃ハント其座スル所ヲ見ルニ厚席^{ヨキセキ}掘^コシテ黠^{アキラカ}ナリシ猶且ツ其席ヲ徹シテ腐朽床ニ及ベリト其勤^{ツメ}勉^{ツメ}書ヲ讀ムノ尋常ナラザルヲ知ル可シ文化乙丑ノ歲西隣ノ地ヲ買ヒ學堂ヲ建テハ弘道館ト名ク其門人ヲ遇スル威アツテ嚴ナラズ愛シテ狎シメズ縉紳先生ヨリ學士太夫ニ至リ及ビ商賈農家ノ子弟ト雖氏應接待遇一モ殊ナルナリシ權貴ニ屈セズ寒素ヲ賤シメズ其門ニ入テ業ヲ問フ者先後三千餘人ニ及ブ淇園其詩賦文章ノ如キハ意到り筆隨と言ハント欲スル所手ヲ下セバ則チ粲然トイ章ヲ成ス。タカヲ用ルル無シ所謂讀書一萬卷筆ヲ下シテ神

アルモハナルベシ文化丁卯ハ夏病ムデ食セズト雖氏且タ書ヲ講シ門人ヲ率ユル平生ハ如シ其五月十六日ヲ以テ歿ス享年七十四ナリシト云フ。櫻所子曰ク成章ハ才思活潑ニシテ人ノ論辯スル所ヲ聞テ言ノ畢ルヲ待タズシテ能ク曉通ス淇園ハ沈着ニシテ反覆疑義ヲ質サレバ止マズ而シテ二子ノ學識ヲ比較スルニ淇園ハ復カニ成章ノ右ニ在リ是其勤勉ノ力成章ノ能ク及ブ所ニ非ルヲ以テナリ才思人ニ過グルアリト雖氏勉力足ラザル氏ハ翻テ鈍才ニシテ勉強尋常ニ超ユル者ニ及バザル古來其例多シ少年才子深ク自ラ誠メズンバアル可カラザルナリ。

第二十七 賴子成勉強刻苦シテ其志ヲ達セシ事

子成名ハ裏通稱ハ久太郎其父春水藝州竹原ノ人初メ大
阪ニ寓シ徒ニ授ク飯岡氏ヲ娶リ安永九年子成ヲ江戸堀
坊ニ生ム子成甫メ六歲忽テ其母ニ問テ曰ク天ハ何如ナ
ル物ゾト母曰ク旋轉止マズ彼ガ如キハミト子成庭ニ下
リ天ヲ仰ギ嘆ジテ曰ク不可思議ナル哉ト啼泣半時許リ
ハ九歲ヨリ喜ムデ古來ハ軍記ヲ讀ミ寢食ヲ忘ル至
ル既ニ句讀ヲ受クルニ及テ晝夜懈ラズ早ク雄邁俊偉ノ
志氣ヲ抱ク寛政五年子成年十三ニシテ一詩ヲ賦シテ曰
ク

十有三春秋逝者已如水天地無始終人生有生死安得類
古人千載列青史

亦其志ノ存スル所ヲ見ルニ足レリ嘗テ眼ヲ患フ春水固

ク書ヲ讀ムヲ禁ズ陰カニ之ヲ讀ムデ止マズ年十四五家
庭ニ學ビ小學近思錄皆已ニ誦習ス一日書ヲ曝ス東坡ノ
史論ヲ讀ミ嘆ジテ曰ク天地間此ノ如ク喜ブベキノ文ア
ルカト遂ニカヲ文章ニ肆ニス最モ史學ニ精シ即チ史ヲ
著シ文ニ托シ以テ後世ニ垂ントス而シテ其書ヲ著スル
ヤ身大都ニ居天下ノ英俊ト交リ書ヲ讀ム多カラザレバ
則チ能ハズ之ヲ以テ早ク遠遊ヲ思フ父母尚ホ之ヲ膝下
ニ羈セント欲スルヲ以テ果サズ年十八叔父杏坪ニ從ヒ
東遊シ尾藤ニ洲ノ塾ニ在ル一年才學日ニ進ム即チ藩ヲ
脱シテ京ニ赴ク是ヲ以テ罪ヲ越疆ニ得仕藉ヲ免ス文化
七年菅茶山其塾生ヲ督センコトヲ請フ乃チ備後ニ遊ブ
翌年去テ京都ニ遊ビ遂ニ止ル年三十二子成常ニ昇平日

ク。士氣。振ハザルヲ慨ス。故ニ氣節ヲ以テ自ラ持シ。亦以テ人ヲ導ク。未ダ嘗テ已レヲ屈シ。人ニ隨テ浮沈容ヲ求メズ。其故國ヲ去ル。誓テ曰ク。已ニ父母ノ國ニ仕フル能ハズ。復タ官服ヲ著ケテ貴人ヲ見ズト。而シテ京ニ入ルノ後。藝列侯ノ往來伏見ヲ過グルヲ聞ク。必ズ袴ヲ着ケ南ニ嚮テ望ミ拜ス。諸藩之ヲ聘スレ氏皆固辭シテ應ゼズ。日野大納言資愛。文辭ヲ好ミ。都下ノ諸儒ヲ招キ。文字飲ヲ爲ス。其名ヲ聞キ之ヲ請スレ氏往カズ。其請數回ニ至ル。乃チ陳ス。野人禮節ニ習ハズ。若シ野服出入シ。及ビ賜予ノ際。臣禮ニ類スル者ナクンバ。則チ敢テ命ヲ奉ゼント。大納言之ヲ許ス。乃チ往ク翌日金ヲ餽リ以テ謝ヲ爲ス。子成之ヲ見テ曰ク。豈禮幣ニシテ人ノ名ヲ小書低書シ。自ラ已ガ名ヲ大

署スル者アラシヤト。門生ヲシテ之ヲ返却セシム。大納言從テ之ヲ謝シ。益其屈セサルヲ敬ス。爾後自ラ其廬ヲ訪フニ至ル。一日子成ヲ召シ宴ヲ賜フ。醉後戲レニ畫ヲ作クル。一大藩侯見テ之ヲ喜ビ。人ニ介シ。朝鮮布二幅ヲ寄セテ畫ヲ請フ。子成憮然トシテ曰ク。我ヲ以テ畫工ト爲スカト。乃チ二絶句ヲ作り。其布ニ大書シテ之ヲ返ス。其一ニ曰ク。曾謝橫經弄翰儒。寧能餘技備觀娛。胸中畫本猶堪獻。彷彿

幽風七月圖

家藏書無シ。四子五經。東坡集。唐宋八大家文數品。本朝ノ史ハ。唯烈祖成績。藩翰譜ノミ。而シテ古今ノ史籍。制度兵法。及ビ家譜野乘。涉獵セサルハ無シ。終ニ能ク外史政記ノ大著作ヲ成ス。一生アリ外史ヲ請フ。子成之ヲ領ス。後チ又來リ

促シテ曰ク、一權貴ニ獻セント欲スト。子成色ヲ正フシテ
曰ク、我が史ハ、權門媚ヲ納ルハ、ハ具ニアラズト。竟ニ與ヘ
ズ。

子成名既一、一時ニ重シ。京ニ遊ブ者多ク來テ見ユルヲ求
ム。一切謝絶シ、已ムヲ得ガルニ非レハ則チ見ズ。平生讀書
ニ耽リ、著述ヲ勤ム。常ニ門生ニ謂テ曰ク、我ヲオ子ト謂フ
ハ、未ダ我ヲ悉クサズル者ナリ。我ヲ能ク刻苦スト。謂フ者
ハ、真ニ我ヲ知レリト。夕べニハ、則チ燈ヲ挑ゲテ書ヲ讀ミ、
五更ニ至テ、後チ寢ニ就ク。朝夕ニハ、則チ起キ、自ラ食ヲ
収メ、戸牖ヲ掃ヒ、以テ常ト爲ス。寒暑ト無ク、一ナリ。其人ニ
接スル畛域ヲ設ケズ、直チニ肝膈ヲ吐ク。人苟モ其意ニ適
ヘバ、對面詰責シテ以クモ假借セズ。改ムレバ則チ止ム。未

ダ嘗テ毫毛意ニ介セズ。門生ニ教コル甚タ意ヲ用ユ。書ヲ
講スルニ抗聲飾辯セズ。恂々トシテ談話ノ如クシ。倦メバ
則チ煙ヲ吹キ、茶ヲ喫シ、必ズ蘊輿ヲ摘發シ、妙旨ヲ剖析シ。
人々ヲシテ了然タラシメテ、後チ止ム。天保元年、胸痛ヲ患
フ。久シクシテ愈ユ。同三年六月、忽チ咳嗽ヲ發シ、血ヲ咯ス。
醫曰ク、是レ積年精神ヲ勞スルノ致ス所。所謂肺血疾ニメ
治スベカラザルナリ。先生ハ豪傑ニシテ死ヲ怖レズ、敢テ
實ヲ以テ告グト。子成笑テ曰ク、死生命アリ。然レモ我レ老
母アリ。且ツ志業未ダ成ラズ。假令一ノ生理無キモ、宜ク醫
療ヲ加フベシ。慎ムテ藥ヲ服シ、傍ラ死計ヲ爲サンノミト。
時方ニ日本政記ヲ著ス。乃チ日夜勉強シテ稿ヲ構ス。曰ク、
我レ必ス之ヲ成シテ地ニ入ラントスト。秋ニ及ビ、疾益劇

シ。然レ凡客至レバ、談笑自若タリ。偶猪飼散所來リ訪ヒ、談
南北朝ノ正統ノ事ニ及フ。議大ニ合ハズ。子成曰ク、苟モ北
朝ヲ以テ正統ト爲ス。豈ニ新田楠諸公ヲ以テ亂臣賊子ト
爲シヤト。目張リ眉軒ガル。其慷慨激烈、病ムト雖、氏衰ヘズ。
遂ニ更ニ正統論ヲ著シ、之ヲ政記中初論ノ後ニ置ク。子
成ノ議論用ニ適スルヲ以テ主ト爲ス。書名亦諱シ、ト雖
氏緒餘ノミ其常ニ心ヲ用ユルハ經濟ノ學ナリ。故ニ弱冠
ヨリ以來、蘇軾ガ策論ニ擬シ、新策十餘篇ヲ作り、晚年ニ及
ビ頗ル之ヲ刪潤ス。即チ通議ナリ。死ニ先ダツ、三日、忽テ曰
ク、猶ホ言ハサル可カラザル者ノ在ルアリト。即日之ヲ草
ス。内廷篇是ナリ。外史ハ凡ソ二十年ヲ經テ成ル。而シテ後
チ猶ホ之ヲ家ニ秘ス。白河樂翁少將之ヲ聞キ、禮ヲ昇フシ、

以テ之ヲ請フ。是ヨリ遂ニ世ニ行ハル。政記最モ晚年ノ作
ニシテ、記事多ク、病中ニ成ル。而シテ終ニ全ク稿ヲ脱スル
能ハザリシナリ。子成病既ニ革カナリ。曰ク、我が死方ニ逼
レリト。然レドモ猶ホ眼鏡ヲ著ケテ、政記ヲ手ニシ、刪潤シ
テ止マス。忽チ左右ヲ顧ミテ曰ク、且ク喧キナカレ、我將サ
ニ假寐セントスト。乃チ筆ヲ閣シ、眼鏡ヲ脱セズシテ瞑ス。
就テコレヲ無スレバ、則チ逝ク。年五十三。天保三年九月ナ
リ。

櫻所子曰ク、子成ノ著スル所、外史政記ノ如キ、全國ニ傳播
シ。初學ノ國史ヲ讀マントスル者ノ、闕クベカラザルノ書
トスルニ至ル。而シテ徳川氏ノ季世、勤王ノ士輩出スト。雖
氏國內一般ニ貴賤ト無ク、王室ヲ尊ビ、幕府ヲ賤ムヲ知ル

ニ至リシ者、子成が史ヲ修メ、其言辭ノ慷慨激切ナル。大ニ
人心ヲ感動セシ者、與ツテカアリト謂フモ大過ナカラシ。
彼大日本史ノ如キハ、卷帙浩繁其載スル所亦詳明ナリト
雖氏、水戸藩侯ノ學士ヲ招集シテ編纂スル所、即チ官撰ノ
書ナリ。外史政記ノ如キ、子成布衣ノ士ニシテ、善ク之ヲ成
ス。殊ニ其家藏書ニ乏シク、僅カニ烈祖成績藩翰譜ノ二書
ニ他ハ數部ノ漢籍ニ過ギズト云フ以テスレバ、其引用
ノ書ヲ借覽シ、或ハ抄録スル等、苦辛思フベシ。而シテ其政
記ノ如キハ、病大ニ漸ムニ及ンデ、猶ホ手ヲ釋カズ。此ヲ刪
潤シ眼鏡ヲ著ケテ眼スルニ及ヘルモノ、實ニ勉メタリト
謂フベシ。子成年猶ホ如フシテ、既ニ古人ニ類シテ千載ノ
後ニ至ルマデ、名ヲ竹帛ニ垂ル、ニ志アリ、稍長ズルニ

及ビ、時ノ不可ナルヲ知り、敢テ仕ヲ求メス。權貴ニ阿ネラ
ズ。史ヲ著シ以テ後世ニ垂ントスルヤ、屬續ノ間、猶ホ手ヲ
釋カズト云フニ至ル、亘ナル哉。其成業ノ卓然トシテ能ク
其言ヲ踐ミ其志ヲ達シ、之ニ於テ垂髫兒ノ雖、山陽賴襄
アルヲ知ラザル者無キヲ致セルヲ其此ノ如ク志ヲ遂ケ
得タル所以ハ何ゾヤ、其自ラ我ヲ才子ト謂フハ、未ダ我ヲ
悉クサバル者ナリ。我ヲ能ク刻苦スト謂フハ、眞ニ我ヲ知
ル者ナリト謂フヲ以テ見レバ、蓋シ子成モ亦刻苦勉強ヲ
以テ之ヲ成就セシモノニ外ナラザルヘシ。若シ之ヲ天稟
ノ史才筆力アリテ然ル者ト爲ストキハ、子成豈ニ首肯セ
ンヤ。今ヤ、日新進步ノ隆運ニ際シ興スベキノ事業、學ベベ
キノ藝術、數フルニ勝ユベカラズ。誰カ能ク雄邁俊偉ノ志

氣ヲ抱キ。古人ニ類シテ千載青史ニ列スルヲ期スル者
ヤ。誰カ能ク刻苦勉勵。日夜怠ラザル。子成其人ニ減ゼサ
ラン。ヲ誓フ者ゾヤ。

第二十八 古川某地理ヲ究メンカ爲メニ海内ヲ歴
遊セシ事

古川某ハ備中ノ人ナリ。幼ニシテ大志アリ。地理學ヲ喜ブ。
學業クハ所無シ。少小ヨリ海内ニ浪遊シ。奥羽ニ抵リ。鰐浦
ヲ渡リ。蝦夷ヲ窺ヒ。筑紫薩隅ヲ究メ。鬼界島ニ至ル。其間鳥
道ヲ攀チ。洪波大濤ヲ族リ。饑寒困頓。舟殆ド覆ハリ。溺没セ
ントスト。雖氏自若トリ。山谷ノ形態隆然タリ。窪然タリ。及
ビ眺覽スル所樹薺。如ク波瀾織ルガ如キ。狀ヲ寫ス。畫
ニ下メナル者。如シ。尤喜ムデ近古戦争ノ跡ヲ尋ネ。其攻

守勝敗ノ由ル所ヲ觀。鈎股法ヲ以テ遠近高低ヲ揣カリ。圖
說ヲ著ハシ。鑿々トシテ據アリ。嘗テ世ノ兵ヲ以テ家ニ名
アル者ヲ罵テ曰ク。此輩ハ芋ヲ煮テ熟否ヲ辨セザル者ナ
リ。烏ンゾ實用ニ施スベケンヤト。寛政中。閤老越中守白川
侯路ニ當ル。意ヲ海防ニ注ギ。關東諸港津ヲ巡視ス。某ノ名
ヲ聞キ。遠ク召致シ。詢フ所アラント欲ス。即チ性キ調シ。問
ニ隨テ指畫ス。應對流ル。ガ如シ。侯大ニ之ヲ奇トス。尋デ
命ヲ受ケ。武藏五郡ノ圖譜ヲ鑿正ス。旨ニ稱フ。遂ニ翁ヲ祿
セント欲ス。人ニ意ヲ以テ某ヲ喻サシム。某哂テ曰ク。吾老
タリ。折腰ノ事ヲ習ハスト。直チニ歸テ室ヲ某郷岡田村ニ
築キ。門ヲ杜ヂテ書ヲ著シ。咏歌自ラ娛ム。嘗テ人ニ謂テ曰
ク。大夫無事ノ時ニ生レ。已ニ彼ハ富岳白山ヲ盆玩シ。大

胡茅渚ヲ、沼視スル者ト。相周旋スル能ハズ。今世ノ所謂薦紳先生ハ、偏裨ハ用ニ供スルニ足ラズ。其々ハ差可ナルノト。

櫻所子曰ク、頼山陽某ノ事ヲ記シテ曰ク、其海内輿地及ビ四隣畧圖ヲ觀ルニ、世々地圖ト大ニ異ナリ。州郡ノ界ヲ畫セズ。特ニ山川脈理ヲ示シ、畧列名ヲ傍ニ署スルハ、余此ニ因テ海宇ノ大勢ヲ識ルヲ得。已ニシテ四方ニ遊ヒ、以テ之ヲ驗スルアリ。史ヲ作り且ツ事ヲ論ズルニ及ビ、依據スル所多シ。皆ナ翁ノ賜ナリト。亦以テ某ノ兼クル所無クシテ、而シテ大ニ得ル所アルヲ見ル可シ。思フニ、其ハ太平無事ノ日ニ生レ、奮然トシテ地理ノ學ヲ實際ニ就テ研究セシト欲シ。跋涉ノ勞ヲ辭セズ、脚跡靖煥全洲ニ遍ネシ。當時

舟楫ノ便ナラザル。道路ノ險惡ナル。其困苦想ノ可キナリ。今世ノ人士、學藝技術ニ刻苦奮勵スル。山中某ノ如クナラシニハ、何事カ成ラザラン。而シテ其功烈亦昔時ノ如ク湮沒セズシテ、永ク美名ヲ日本文明史ニ輝カスアラン。必セリ。今日ニシテ學術技藝ニ奮勵スル所無クシバ、將タ何ノ日ヲ待タシム。

第二十九 森宇左衛門書ヲ手寫シ數十卷ニ至リシ

事

森宇左衛門字ハ白高。江戸ノ人也。世、舉母ノ城主内藤侯ニ事ヘテ、宰臣ト爲ル。白高人ト爲リ、慷慨ニシテ、勉強ハ力人ニ過絶ス。學ヲ好ミ、凡ソ治邦安民ヨリ、兵法火術、籌海書ニ至ルマデ、佳著ヲ得レバ、輒チ之ヲ手寫ス。膏ヲ焚キ、晷ニ繼

右。致。知。ト。シ。テ。倦。マ。ズ。謄。録。ス。ル。所。數。十。箇。ニ。及。ブ。積。ム。六。座。
右。ニ。置。キ。又。覆。披。展。シ。朱。黃。爛。然。タ。リ。必。ス。其。要。領。ヲ。得。テ。止。
ム。白。高。官。事。執。掌。ト。雖。氏。而。カ。モ。閑。ヲ。偷。ミ。達。人。名。士。ト。交。リ。
鹽。谷。宮。陰。川。西。士。龍。安。井。仲。平。芳。野。叔。果。等。ト。詩。酒。徵。逐。ス。時。
ニ。天。下。晏。然。ト。シ。テ。四。境。無。事。ナ。リ。然。レ。氏。白。高。清。國。ニ。鴉。片。
ノ。亂。アル。ヲ。聞。キ。竊。カ。ニ。杞。憂。ヲ。抱。キ。友。ト。相。遇。フ。輒。チ。兵。備。
ヲ。論。究。ス。最。モ。心。ヲ。海。防。ニ。留。ム。日。夜。勞。畫。ス。ル。所。アリ。以。テ。
事。ニ。施。ス。ヲ。思。フ。中。風。ニ。罹。リ。文。久。三。年。歲。五。十。九。ニ。シ。テ。歿。
ス。

櫻。所。子。曰。ク。白。高。一。藩。ノ。宰。臣。ト。シ。テ。官。事。執。掌。ノ。間。能。ク。一。
時。ノ。名。士。ト。交。ル。ス。ラ。尋。常。俗。吏。ト。同。視。ス。可。カ。ラ。ズ。其。清。ニ。
鴉。片。ノ。亂。アル。ヲ。聞。キ。海。防。ノ。事。ヲ。畫。ス。亦。憂。國。ノ。士。ト。謂。フ。

可。シ。況。ヤ。書。數。十。箇。ヲ。手。寫。シ。座。右。ニ。積。ム。デ。又。覆。披。展。ス。ル。
ニ。至。ル。篤。志。ト。謂。フ。可。キ。ナ。リ。

第二十 觀世次郎太夫儉父ヲ師トセシ事

猿。樂。ニ。觀。世。部。ナル。者。アリ。足。利。氏。ノ。時。ニ。著。ハ。レ。累。世。業。ヲ。
襲。ヒ。德。川。氏。ノ。時。ニ。至。ル。次。郎。太。夫。ト。云。者。ニ。至。テ。尤。モ。著。ハ。
ル。ト。云。フ。猿。樂。ニ。曲。名。木。賊。ト。稱。ス。ル。者。アリ。最。モ。エ。ミ。ナ。
リ。難。シ。世。奏。ス。ル。ニ。エ。ナル。者。ナ。ク。シ。テ。次。郎。太。夫。獨。リ。此。曲。
ヲ。以。テ。著。ハ。ル。毎。ニ。之。ヲ。奏。ス。諸。伶。部。號。シ。テ。善。伎。者。ト。稱。シ。
皆。嘆。稱。シ。テ。措。カ。ス。次。郎。太。夫。モ。亦。自。ラ。謂。ラ。ク。天。下。ノ。此。曲。
ニ。妙。ナル。者。我。ニ。若。ク。ナ。シ。ト。或。時。觀。世。部。大。ニ。場。ヲ。櫻。田。ニ。
開。キ。以。テ。伎。ヲ。演。ス。奏。木。賊。ノ。曲。ニ。及。ブ。都。下。傳。聞。シ。テ。侯。伯。
士。太。夫。ヨ。リ。賈。豎。販。婦。ニ。至。ル。マ。デ。聚。觀。セ。サ。ル。ハ。ナ。シ。既。ニ。

シテ次郎太夫、錦袍繡袴、鎌ヲ手ニシテ出ヅ。折旋舞蹈、悉ク其節ニ中タル。衆喝采シテ已マズ。呼聲沸クガ如シ。曲闌ル。次郎太夫、顧テ其徒ニ謂テ曰ク、觀ル者皆服ス。而シテ獨リ隅ニ笑フ者アリ。汝ダ物色シ來レト。乃チ諸レヲ門ニ要シテ得タリ。其人叩頭シ罪ヲ謝ス。次郎太夫曰ク、何ゾ罪ヲ謝スルヲ須キンヤト。因テ其業ヲ問ヘバ、則チ云フ陸奥ノ人ニメ、木賊ヲ刈テ生ト爲ス。其笑フ所以ヲ問ヘバ、則チ云フ木賊叢生スル、運鎌尤モ難シ。一前一却、便チ能ク之ヲ剪ル。今君ガ爲ス所ヲ觀ル、則チ却剪スルノミ、吾故ニ其法ヲ失スルヲ笑ヒシナリト。次郎太夫大ニ感悟シ、即チ其僮父ヲ拜シテ師ト爲シ、講習日夜ヲ累ネ盡ク其法ヲ得タリ。是ニ於テ再ビ木賊ノ曲ヲ奏ス。其巧妙、更ニ前ニ倍增ス。而シテ木

賊次郎太夫ノ綿號、天下ニ著ハル。次郎太夫終ニ千金ヲ以テ僮父ニ報ズト云フ。

櫻所子曰ク、聞ク揚廷秀ハ博學宏文ナルモ、嘗テ下吏ノ言ニ從ヒ、文中ノ一字ヲ改ム。吏ヲ稱シテ一字ノ師ト爲スト。傳ヘテ以テ美譚ト爲ス。然リト雖、延秀ハ有識ノ士ナレバ、汎ク益ヲ求メテ貴賤ヲ論セザリシモ、亦深ク惟ムニ足ラズ。次郎太夫ノ如キ、一伶人ノミ、其意ヲ伎ニ用ユルノ篤キ。帝ニ諸伶人ノ若カザルノミナラズ。儼然タル士君子ト雖、次郎太夫ニ愧ル無キ者、蓋シ鮮シ。何トナレバ世上却剪スルノミナル者アリテ、其隅ニ笑フ者一人ノミナラザルモ、延テ之ヲ問ヒ、問フテ之ヲ師トスル能ハザルノミナラズ。憤然其笑フ者ヲ罵テ曰ク、彼ハ僮父ナリ、彼ハ暴書生

ナリト。翻テ已ヲ妬ミ已レヲ毀ル者ナリトシテ之ヲ敗斥
ス。故ニ已レガ失錯誤謬アリト雖氏。多クハ之ヲ悟ラス。偶
之ヲ知ルモ改メズ。隨テ之ガ辭ヲ作クル。吁。士君子ニシテ。
一伶人ノ平素黽勉意ヲ伎ニ用ユルノ篤キニダモ若カズ
シテ可ナランヤ。學者須ク反省スル所アルベキナリ。
第三十一 寶生彌五郎指ヲ咋ムデ假面ニ血ヌリシ

事

寶生彌五郎ハ。散樂ヲ以テ幕府ニ仕フ。發ク善伎ヲ以テ名
アリ。而シテ道成寺ノ曲。殊ニ其得意ト爲ス。時ニ某侯酷ダ
散樂ヲ好ミ。嘗テ彌五郎ヲ召シテ其曲ヲ演セシム。彌五郎
乃チ女裝ヲ扮シ。舞曲ヲ奏シ。烏帽繡衣階ヲ踐ムデ場ニ上
ル。既ニシテ謠フ。謠ヒ畢テ鼓笛響キ急ナリ。舞踏上下直チ

ニ前ムテ鐘ニ近ツキ。躍テ懸鐘ニ入ル。鐘人ト與モニ墜リ。
凡ソ此曲ヲ演スル者。例シテ豫メ鬼女ノ假面ヲ鐘中ニ置
キ。以テ後曲ハ換装ニ備フ。此日彌五郎之ヲ索ムレバ獲ズ。
蓋シ諸伶輩其技能ヲ妬ミ。潛カニ度シ以テ之ヲ窘ムルハ。
彌五郎之ヲ覺トリ。切齒憤懣ス。既ニメ謂ラク事已ニ此
至ル。其狼狽奔走シテ笑ヒヲ衆人ニ取ランヨリハ非常
ノ装ヲ作シ。以テ人目ヲ驚カスニ孰若レト。乃チ其指ヲ咋
ミ。之ヲ前曲用ユル所ノ假面ニ塗ル。鮮血淋漓トシテ鬼氣
真ニ逼ル。取テ之ヲ蒙ハリ装成テ鐘上ル。彌五郎乃チ起舞
曲ヲ奏ス。怒氣勃勃。毛髮悉ク張ル。如ハルニ假面ノ奇異ナ
ルヲ以テス。觀ル者驚歎シ。以テ絶技ト爲ス。曲闌テ候其所
由ヲ問ヒ。始メテ其儕輩ノ窘ムル所トナルヲ知リ。激賞シ

テ舍カス。厚賚之ヲ勞ラヒ。後チ候。其假面ヲ請ヒ。之ヲ府庫ニ藏シ。名ケテ塗血假面トスト云フ。

櫻所子曰ク。小人ノ能ヲ妬ムハ。社會ノ通患ナリ。彌五郎ノ意ヲ伎ニ用ユルノ深キ指ヲ咋ムデ假面ニ血ヌリ。群小ヲシテ寒心セシム。今世ノ人士動モスレバ危キニ臨ムテ遠巡シ。一毫已レニ害無カラシヲ欲スルヨリシテ。敢爲ノ氣象ニ乏シキ者。亦焉ンゾ天下ノ人ヲシテ驚歎セシムルニ足ランヤ。嗚呼。彌五郎ガ其伎ノ爲メニスルノ奮勵ナルニ愧ル丁多シ。

第三十二

山田琳卿學業ヲ勤メ實踐ニ厚カリシ事
山田琳卿。安五郎ト稱シ。方谷ト號ス。備中ノ人。文化二年ニ生ル。家世農ヲ業トス。琳卿三四歳ニシテ能ク筆寫字ヲ作

リ。句讀ヲ解ス。八九歳ニシテ能ク詩文ヲ屬ス。客アリ問テ曰ク。兒ガ學問ハ何事ヲカ爲サントスルゾト。琳卿聲ニ應ジテ曰ク。國ヲ治メ天下ヲ平カニス。ト客驚歎ス。成童ニシテ。恬静ヲ失ヒ。家務ヲ治ム。暇マアレバ。則チ誦讀シテ懈ラズ。松山藩主板倉侯之ヲ聞キ。二口糧ヲ給シテ。學資ニ充テ。尋デハ口糧ヲ賜ヒ。班中扈從ニ准ジ。藩學ノ會頭ト爲ス。時二年二十五。居レ丁二年。京都ニ遊ブヲ請ヒ。寺島鈴木春日ノ諸儒ニ交リ。遂ニ江戸ニ至リ。佐藤一齋ニ從ヒ。佐久間象山。鹽谷宕陰等ト友タリ。相共ニ研精ス。ル丁凡ソ八年。其勤苦。勉勵セルヲ以テ歸ル。ノ日ニ到リ。業大ニ進ム。課六十石ヲ賜ハリ。學頭ト爲ス。琳卿猶々トシテ教授シ。闔藩ノ子弟競テ學ニ嚮フ。而シテ遠近ノ生徒モ亦廣集シ。家塾恆ネニ

盈ッ。又權テラレテ度支ヲ掌トリ。財政ヲ革ム。時ニ藩ノ紙幣濫出シ。價格大ニ減ズ。琳卿其半ヲ火ス。乃チ原價ニ復セリ。又大ニ物產ヲ殖シ。轉ジテ江戸ニ鬻ギ。以テ邸費ニ充ツ。是ニ於テ貯金歲入ニ倍シ。兵械ノ殘缺スル者。盡ク備具シ。士祿ノ節減スル者。皆舊ニ復ス。侯又琳卿ヲシテ郡宰ヲ兼。民政ヲ革メシム。琳卿乃チ賄賂ヲ絶チ。奢靡ヲ禁ジ。郡校ヲ設ケ。貯倉ヲ置キ。道路隘キ者ハ之ヲ拓キ。川溝塞ガル者ハ之ヲ疎シ。巡吏ヲ嚴ニシ。鄉兵ヲ編ミ。以テ不虞ヲ戒ム。之ヲ行フ。丁十年。民富ミ。俗變ス。是ヨリ先キ藩侯其家臣ノ弊風ヲ革メ。カチ文武ニ專ラニシ。又ビ洋陣ヲ演セシム。軍艦ヲ購フ。皆琳卿ノ贊成スル所。衆論喧騰。風刺。身ニ華マル。琳卿シテサルモハ。如シ。而シテ侯益之。任ジテ疑ハズ。

祿百石ヲ加賜シ。參政ニ任ス。衆モ亦終ニ服ス。當時昇平日久シク。列藩奢侈遊惰ニシテ文武ノ何事タルヲ知ラズ。是ヲ以テ松山藩華政ノ名。殊ニ藉々タリ。四方ヨリ來テ風ヲ觀ル者。跡ヲ絶ズシテ。琳卿ニ就テ理財ヲ問フ者。最モ多シ。文久元年。幕府侯ヲ以テ寺社奉行ト爲ス。琳卿扈從シ。江戸ニ如ク。會略無ヲ患ヒ。歸養ス。何クモ亡ク。侯閣老ト爲ル。琳卿ヲ召ス。琳卿疾ヲカメテ東行シ。顧問ニ備ハル。大將軍特ニ謁ヲ賜フ。侯遂ニ琳卿ヲ以テ老臣ニ推ス。是時外國競觀シ。大藩跋扈シテ。幕政潰々タリ。積弊百出ス。琳卿侯ヲ輔ケ。大ニ釐革スル所アラント欲ス。謁ヲ春岳明山諸侯ニ執リ。橫井桂ノ諸士ニ接シ。百方周旋ス。然レモ否運ノ復々回ス。可カラサルヲ見。遂ニ疾ニ移シテ歿仕ス。侯其留ム可カラ

日本書紀卷之三
ザルヲ知リ乃チ賜ハ慰勞シテ之ヲ許シ。猶小藩政ノ議ニ
與カシテ命ズ。維新ノ後琳卿年老ユ世事ヲ厭フテ刑部山
中ニ退隱ス。而シテ四方ヨリ來テ業ヲ問フ者率不數百人。
明治十年五月年七十三ニシテ歿ス。
琳卿ハ入タル豪爽ニシテ智略アリ。議論多ク人ノ意表ニ
出ヅ。而シテ恭遜以テ之ヲ待ヒ。忠義以テ之ヲ貫ス。故ニ
人皆信服ス。少壯ニシテ酒ヲ嗜ミ。飲劇談往々嗜ニ徹シ。
其止ム。遂ニ此ヲ以テ疾ヲ致ス。一意攝養杯ヲ手ニセザル。
者二十年。其性ニ克チ欲ヲ望ギ。實踐ニ篤キ。大抵此ニ類ス。
其博聞淹洽ナル書ニ於テ讀メザル所無シ。讀ム必ズ精到。
深詣獨得ノ說多ク。又禪理ニ邃カシ。其平生機ニ投シテ勇
進シ。理ヲ見テ決行シ。物ニ執滯セザル者。蓋シ此ニ得ルア

リト。其詩文達意ヲ主トシ。筆ヲ下セバ千言立トコロニ成
ル。隨テ散逸シ。復タ稿ヲ留メズ。獨リ獻筆對問ノ國字稿ア
リ。積ニデ將廿ニ身ニ等シカラントスルヲ秘シテ人ニ示
サズ。嘗テ門人ニ謂テ曰ク。吾藩事ヲ論ズル者多ク行ハル。
天下ノ事ヲ論ズルニ至テハ。則チ一モ行ハレズ。他日此稿
ヲ觀テ之ヲ知ラント。

櫻所子曰ク。琳卿農家ニ長生シ。早ク松山侯ノ知ル所トナ
リ。中扈從ヨリ宰臣ト班ヲ同フスルニ至ル。幕府政ヲ失シ。
人心恟々タルノ日ナリト雖氏。門閥世襲ノ曩時ニ在テハ。
異常ノ拔擢ヲ受ケタル者ト謂フ可シ。而シテ其學ブ所ヲ
以テ。松山一藩ノ財政ヲ革新。民政ヲ革新。後チ侯ヲ輔ケテ。
國ヲ治メ天下ヲ平カニスルノ初志ヲ達セント試ミタル

五十四
モ時、非ナルヲ知テ退隱セリ其能ク此ノ如クナルヲ致
セシ所以、者琳卿が性ニ克チ欲ヲ窒ギ實踐ニ篤キ其嗜
ム所ノ酒ヲ禁停シテ二十年ニ及ベルヲ以テ學業ニ政務
ニ堅忍勉強ニシテ未ダ嘗テ其嗜好ヲ充タシ言ニ敏ニシ
テ行ヒニ鈍キが如キ丁無カリシヲ推知スベシ後進ノ士
恆ニ琳卿が實學實踐ヲ模範トシ性ニ克チ欲ヲ窒ギ敢テ
懈ル丁無クンバ其身ノ利達ナラザランコヲ欲スト雖氏
豈得ベケンヤ若シ性ニ克チ欲ヲ窒グ丁能ハズ辨論ニ巧
ミナルモ實踐ニ近ナラバ則チ以テ利達ヲ求メント欲ス
ル氏猶ホ煙無キノ火水無キノ氷ヲ求ムルが如シ省察セ
ズンバアルベカラザルナリ
日本立志編卷之三終

明治十二年十一月十五日 版權免許
全 十五年三月廿四日 再板御届

著述者

福島縣平民

千河岸貫一

東京府下芝區島森町
志番地寄留

出版人

大阪府平民

吉岡平助

府下東區備後町四丁目
三十七番地

發行人

全

前川善兵衛

全 東區南久寶寺町
四丁目八番地

